



生活協同組合コープみらい
10周年記念誌
2013-2023



未来へつなごう

2013年、春。

私たちは「ひとつになって、みらいへ。」を
高らかに宣言しました。

コープみらいを創った想い、

想いを形にしてきた足跡を胸に刻みます。

夢と希望を抱き、コープみらいの未来を語り合います。

持続可能な世界の地平を拓くために。



生活協同組合コープみらい
理事長

新井 ちとせ

生活協同組合コープみらいは創立10周年を迎えました。支えてくださった組合員の皆さまをはじめ、生産者・お取引先、行政、諸団体、関係する方々に心より感謝申し上げます。加えて、たゆまぬ努力を重ねてきた役職員に敬意を表します。

2013年3月21日、ちばコープ・さいたまコープ・コープとうきょうによる組織合同（合併）で誕生したコープみらいは、「ひとつになって、みらいへ。」を宣言して歩み始めました。思い起こせば、組織合同の論議を進める中で実施した「夢アンケート」に寄せられた80万人もの組合員の皆さまからの声を、新しい生協の「ありたい姿」としてまとめ、さらに、「ありたい姿」に込められた思いは、2014年に策定した「ビジョン2025」に受け継がれました。

コープみらいは、ビジョンの実現に向け、各事業や組合員の自主的な活動、災害復興や生活困窮者支援といった社会的な活動、コロナ禍での活動を通じて組合員のくらしや地域社会への貢献に取り組んできました。こうした日々の事業と活動は、「誰一人取り残さない」社会の実現に向けたSDGsの取り組みと重なると考えています。私たちはSDGs達成への一翼を担い、社会から求められている役割を明確に示し、果たしてきたことを誇りに思いながらこれからも邁進してまいります。

世界情勢が混沌とするなか、平和が危ぶまれています。平和とは、普段のくらしを守ること。未来の人たちに「あの時代に頑張ってくれた人たちがいたから、今の平和がある」と実感してもらえるよう、次の10年、その先の未来に思いをめぐらせ、くらしを守ることを大切な価値として次世代に引き継いでまいります。

生協は助け合いの組織。人と人とのつながりを大切にしながら、事業と活動を両輪に、社会とともにコープみらいの「未来」を描いてまいります。今後とも変わらぬご指導、ご支援をよろしくお願い申し上げます。



東京都知事

小池 百合子

生活協同組合コープみらいが、創立10周年の節目を迎えられましたことを、心よりお慶び申し上げます。

貴組合は、2013年にコープとうきょう、さいたまコープ、ちばコープの合併により、スタートしました。日本最大規模の購買生協として、生活協同組合全体の発展はもとより、食の安全・安心の確保、福祉事業など、様々な分野で組合員の生活に寄り添い、地域社会の発展や組合員の消費生活の向上に貢献されています。

また、宅配や店舗を通じた日常的な見守り、あるいは高齢者の消費者被害防止に向けて、東京都との間に「都と事業者との連携による高齢者等を支える地域づくり協定書」を締結し、地域に根ざした活動を展開いただいております。

この3年間、新型コロナウイルスの影響により、消費者の生活も大きく変化しました。そうした未曾有の状況にあっても、皆様は、生活必需品の安定供給に努め、都民のくらしを守る活動に精力的に取り組まれています。深く敬意を表します。

東京都は、この度、東京都消費生活基本計画を改訂しました。この新たな計画に基づき、「エシカル消費」「デジタル社会」「連携・協働」の視点から、幅広く施策を展開します。

安全・安心は、東京の持続的な発展の礎です。この基盤をしっかりと固め、新型コロナウイルス感染症や気候変動、自然災害、物価高騰といった様々な危機を乗り越えて、持続可能な回復「サステナブル・リカバリー」による、より良い未来への取組を加速してまいります。皆様の一層のご理解・ご協力をお願い申し上げます。

結びに、生活協同組合コープみらいが、輝かしい未来に新たな一歩を踏み出し、地域になくてはならない存在として、ますます発展されることを祈念し、お祝いのご挨拶といたします。

小池 百合子



埼玉県知事
大野 元裕

生活協同組合コープみらいが創立10周年を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。

2013年にさいたまコープ、ちばコープ、コープとうきょうの3生協が合併して「生活協同組合コープみらい」が誕生して以来、貴生協は、約363万人が加入する日本最大の生協として、地域住民の生活の安定と向上に大きく貢献してこられました。これまでの関係各位の御尽力に対し、深く敬意を表します。

さて、貴生協は「CO-OP ともに はぐくむ 暮らしと未来」の理念のもと、昨年度SDGsの重点課題を策定され、「未来へつなごう」をスローガンに、持続可能な生産と消費のため、また安心して暮らせる地域づくりのための様々な取組を進めておられます。これは、正に本県が取り組んでいる誰一人取り残さない「埼玉版SDGsの実現」に通じるものと考えます。

昨年度県が策定した新たな「埼玉県消費生活基本計画」では、施策の柱の一つに「持続可能な消費生活社会の実現」を掲げております。SDGsの目標を達成するため、行政だけでなく、消費者、事業者などと連携してSDGsの理念を広く浸透させるとともに、関係する全ての方がその役割を果たせるよう、施策を推進してまいります。

貴生協が県との包括的連携協定や県内全市町村と締結されている高齢者の見守り協定などにより、一人一人の暮らしと地域に寄り添った活動を展開されていることは、誠に心強い限りです。今後も地域の様々な課題の解決に向け、一層大きな役割を担っていただくことを期待しています。

また、組合員の皆様方には引き続き、県の消費生活に関する施策に対しまして御理解、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、生活協同組合コープみらいがますます発展されますことを祈念いたしまして、私のお祝いの言葉といたします。

大野 元裕



千葉県知事
熊谷 俊人

生活協同組合コープみらいが創立10周年を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。

生活協同組合は、消費生活協同組合法に基づき、地域に根差した住民の自発的な組織として、お互いが助け合う、支え合うという共助の精神のもと、商品の供給や共済、福祉などの事業を行うほか、災害時の活動など、県民の日常生活を支える上で大きな役割を果たすこととされています。

貴組合におかれましては、平成25年に、ちばコープ、さいたまコープ、コープとうきょうの3生協の組織合同により誕生して以来、宅配事業や、店舗事業、福祉事業等を通じて県民の消費生活の安定と向上に寄与されるとともに、地産地消や県内産品の普及、安全・安心なまちづくりに向けた取組など地域貢献活動を積極的に展開されてきました。

また、例年、「コープみらいフェスタ きやっせ物産展」を幕張メッセにおいて開催し、様々な特産品を通じて千葉の魅力を発信していただいていることに感謝申し上げます。

特に、昨今のコロナ禍においては、外出自粛などに伴う宅配需要の高まりへの迅速な対応や生活困窮者への支援活動など、多くの県民の生活を支えていただいておりますことに改めて感謝申し上げます。

県といたしましても、豊かな県民生活の実現を目指し、全庁を挙げて「千葉県総合計画～新しい千葉の時代を切り開く～」を推進しているところですが、急速な時代の変化の中で生じる県民ニーズなどに対応していくためには、貴組合をはじめ民間の企業・団体の皆様と連携していくことが不可欠であると考えておりますので、今後ともお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、生活協同組合コープみらいの今後ますますの御発展と組合員の皆様の御健勝・御多幸を祈念申し上げます、お祝いの言葉といたします。

熊谷 俊人

田井前理事長×新井理事長×熊崎専務理事 ～「コープみらい」誕生から受け継ぐ思い～

2013年3月21日、ちばコープ・さいたまコープ・コープとうきょうの3生協が組織合同（合併）して誕生した「コープみらい」。全国の生協においても、画期的な取り組みとなった3生協合併は、長い年月をかけ、着実に歩みを進めていました。コープみらい誕生に込められた思いや夢とは……

社会の未来とともに歩む 「コープみらい」

熊崎 コープみらい誕生までに、多くのご苦労があったと思いますが、まずは田井さんに経緯を振り返っていただきたいと思います。

田井 コープみらいの誕生は、生協にとって大きな出来事でした。県域を越えた組織合同という点では、2007年の生協法改正が決定的な影響をもっていました。さらにいいますと、全国の生協が県域規制の緩

和を求めて日本生協連の生協法改正要求案に合意し、まとめていたというのが大きな流れです。もうひとつの大きな流れは、2004年のさいたまコープ・コープとうきょう・コープネットの3者による中期計画の策定です。当時は旧生協法の下ですから、県域を越えた組織合同はできません。しかし、合併に近い事業連帯を目指すという方向が示され、中期計画が作られたのです。この2つが、コープみらいを創った、生協の中での道筋でした。

熊崎 生協法改正要求案の議論は、3生協合併の何年くらい前の出来事でしょうか。

田井 議論が始まったのは2005年です。実際にコープみらいが誕生したのは2013年ですから、約8年におよぶ大きな流れのなかで実現した出来事でした。コープみらいは設立に直接関わった人たちだけでなく、全国的な組合員の力や生協の力によって誕生したといっても過言ではありません。

熊崎 生協法の改正で組織合同（合併）ができるようになり、最初が全国で最大の生協、コープみらいの誕生だったことは、社会的にも、また全国の生協に対しても責任は大きいものがありますね。

田井 「コープみらい」という名称を組合員からいただいたことには、そうした、大きな期待や責任が込められていたことがうかがえます。つまり、この「みらい」には、社会の未来という意味も重ねられています。



右から
前理事長 田井 修司
理事長 新井 ちとせ
代表理事専務理事 熊崎 伸

現在の社会だけでなく、未来の社会を考える組織であるということも、コープみらいは誕生の時からまさに運命づけられていたのです。いかなるときも社会の未来とともに歩むということは、コープみらいが誕生した時からの期待であり責任でした。

コープみらいは 組合員が創り上げた組織

熊崎 その後、3者の中期計画の枠組みがさらに発展し、コープネットグループ共通の理念・ビジョンも作られていきます。

田井 ところが、2008年1月に発生した「CO・OP 手作り餃子重大中毒事件」で組織合同や日本生協連との連帯の取り組みがすべて白紙に戻ります。餃子事件は確かに、第一義的には品質保証や安全・安心に関わる重大な問題でした。しかし、もう一つの側面として、餃子事件を通して組合員がいる各生協と事業連合および日本生協連との関係が問われたと思います。

組合員から、本当に厳しいご批判やご意見をたくさんいただきました。そんな中、ある組合員から言われた一言が、今でも私の心に深く残っています。それは、「いろいろあるけれど、生協はひとつなんです。このことを絶対に忘れないでください」という言葉。この事件を通し、「生協はひとつである」という提起は、生協

が追求していくべき重要なテーマであり、連帯の力で危機を乗り越え、組合員に信頼されるよう再構築していかなければならないという決意が明確に固まりました。新たな連帯の論議はここからまた始まりました。

熊崎 連帯論議の再出発ということですね。

田井 この事件を通して、私たちは自らの足元を掘り下げる活動がとても重要であるということ学びました。各生協でもコープネット事業連合でも、私たちの足元には組合員の暮らしや地域があるということ全国的に認識する契機になりましたし、組合員との関わりのなかでしか、生協のガバナンス^{※1}は進んでいきません。この点にあらためて光を当てたのが、この餃子事件だったのです。

熊崎 その後、2009年から組織合同の議論が本格的に始まり、同年秋に開催した地区別の総代会議で「組織合同も選択肢のひとつとする」ということを総代に問いかけてきました。

田井 その翌年に組織合同検討委員会が発足し、さらに2011年6月、組織合同協議会を結成。当時の事業連帯をさらに発展させるものとして、組織合同をめざして議論が重ねられました。

「なぜ、コープみらいを創ったのか」ということで言えば、組合員との向き合い方、これが決定的だったと思います。ちばコープ・さいたまコープ・コープとうきょうの3生協で一斉に「夢アンケート」と「期待ア



コープみらい 前理事長 田井 修司
(プロフィール) 2002年～2012年ちばコープ理事長
2013年～2015年コープみらい理事長

※1 ガバナンス：透明性・公正さ・適正さを確保しながら健全経営を全うするための管理の仕組み

ンケート」を行いました。全組合員を対象に、直接意見を聞くために、組織を挙げて2つのアンケートを実施したのです。これに対し、実に80万人もの組合員からご回答をいただき、「あなたは組織合同に期待しますか?」という質問に対しては95%以上もの組合員が「期待します」と回答してくださいました。

熊崎 コープみらい誕生に対して、決定的な後押しになりましたね。

田井 そうです。この回答は、80万人の方がコープみらいの誕生に直接関わってくださったということの証であり、コープみらいは、まさに組合員が創り上げた組織であるということの証明であると思うのです。

熊崎 アンケートを回収していた職員自身の勇気や自信にもつながったと思います。

田井 それから「夢アンケート」でいただいたご意見をもとに「新しい生協のありたい姿」を1枚のイラストにまとめたのは力仕事だったと思います。あれだけの

アンケート結果をまとめるというのは、大変な議論を積み重ねていただいたからだと思いますが、結果として、組合員の期待がぎゅっと凝縮され、「コープみらいはこれを実現するのです」と確信をもって言えるようになりました。コープみらいは設立当初から全国的な連帯に支えられているということと、多くの組合員に直接支えられて生まれてきたということは、コープみらいにとって大切なことだと思います。

みんなで夢を共有し、「ひとつになって、みらいへ。」

熊崎 当時、新井さんも組合員理事として参加され、コープみらいの「ありたい姿」をまとめるところに立ち会われていましたが、当時の印象は?

新井 新しい生協への期待や不安、要望などを一人でも多くの組合員から寄せてもらおうということで、

現場の職員と組合員組織が力を合わせたことが、80万人の回答につながったのだと思います。私たちは生協のありたい姿を次の6つで組み立てました。「食卓を笑顔にしたい」「誰もが楽しんで利用しやすい生協」「地域とつながり誰もが暮らしやすい生協」「誰もが頼れる生協」「組合員の声、意見、要望を聴き、活かす生協」「社会へ向けた発信力」。これは「夢アンケート」のなかで、組合員からの期待や要望としてボトムアップされてきた声です。

ちばコープ・さいたまコープ・コープとうきょう、それぞれに土壌があり、異なる歴史を重ねてきたけれど、この声を実現するために、私たちは何をすべきかと考えられたことは、とても意義のあることでしたし、これが2014年の総代会で可決されたビジョン2025につながっていきました。

熊崎 みんなが同じ方向を向いて進めることができたのは、大事にするものが同じだったからなのですね。

新井 そう思います。2009年から2013年3月まで開催した、3生協の組合員理事懇談会は40回、交流会は11回にのぼりますし、2012年7月には組合員リーダー^{※2}400名が大集合してみんなで確認しあって進めてきた組合員活動のプロセスがあります。互いの違いを比較するだけでなく、それぞれの歴史を大事にしながら、新しい生協にふさわしい形を作っていく。そんな思いで取り組みました。

そうはいっても、3つのものを1つにするのですから本当に大変でした。意見の食い違いや対立もありましたし、一度決定したことがひっくり返ることも少なくありませんでした。それでもみんなで前へ進めることができたのは「ひとつになって、みらいへ。」というフレーズ(キーワード)があったからです。もしも、誰かが我を通していたら今の参加とネットワークの考え方や組合員活動はなかったと思います。あのときにみんなで思いをひとつにして、みんなで方針を立てて進められたということは、とても価値のあることです。この10年間、コープみらいの考え方を共有で



きるようになってきているのは、あのとき苦労しながら基盤を作ってくださった先輩たちのおかげだと感謝しています。

熊崎 そうしたプロセスを経て、コープみらいの今があるのですね。

新井 実は私にも印象的な言葉があります。組織合同の議論の中で組合員さんに幾度となく言われた「組織が大きくなったら地域のことなんて忘れてしまうのではないですか。私たちの声が届かなくなってしまうのではないですか」という言葉。

私たちは地域のニーズや組合員の暮らしに寄り添い、コミュニケーションを大事にしながら、地域社会づくりに貢献してきて、そのことがコープみらいにとって大きな財産となり、ビジョン実現に向けた原動力になっています。ビジョン実現のゴールに向けてみんなを巻き込みながら一緒に作り上げていく、そんなプロセスを、私たちは3生協合併の過程で培ったのだと思います。

田井 それはすごいことですね。今でも印象に残っているのは、合併の前に組合員理事たちがそれぞれ

※2 組合員リーダー：地域や人と人とのつながりづくりなど地域の様々な活動をサポートするコーディネーター



「新しい生協のありたい姿」イラスト図

の地域に出かけて交流していたことです。あの姿には感動を覚えました。実際に地域に足を運び、現場との関わりがなかで、生協のあり方を考えていったのです。「生協はひとつ」というコープみらいのイメージもありますが、同時に、「地域の多様性に開かれた存在」というコープみらいをその出発点において創ってくれたと思います。

熊崎 「大きくなって地域の声大切にしてください」という思いを受けて、コープみらい誕生当時、理事長をされていた田井さんとしてはどんな思いが残っていますか。

田井 それぞれの地域には歴史も地域としての特徴もありますから、3つの地域をひとつにまとめることはできません。そこには300万人の一人ひとりの暮らしがあるわけですから、コープみらいは地域や暮らしにおける多様性を包み込む組織になりたいと願っていました。

熊崎 当時、田井さんは「300万人の組合員のモデルがあるわけじゃない。300万人の暮らしがある。そこを間違っちゃいかん」と、いつもお話しされていましたね。

田井 300万人の暮らしと聞くと、ひるんでしまうじゃないですか。そんなにたくさんの暮らしに向き合うな

って無理じゃないかと。でもそこを一步一步前進させて、多様性に向かって開いていったのは、コープみらいの設立に携わった人たちの、努力の積み上げに他ならないと思います。

人々の暮らしを守り、成長し続ける組織へ

熊崎 コープみらい誕生以降、記憶に残っていることがあれば教えてください。

田井 現在では福祉の取り組みや商品検査センターのリニューアルなど組合員から期待されていたことが実現していて、継続性と発展を感じます。また、当時、とても嬉しかったことは、社会の未来を見据えた10年後のビジョン2025をみんなで具体的にまとめたことです。理念やビジョンは組織のまとまりを作り、ひとつにする力を持っています。それをみんなの力で作り上げたということが、大変印象深く残っています。

熊崎 そうやってみんなでビジョン2025を作り、バトンを受け継いだ新井さんはいかがでしたか。

新井 正直なところ、重かったです。300万人の組合員さんがいて、全国で一番大きな生協の代表に組

合員だった私が就任するなんて、誰も想像しなかったことです。本当に悩みましたけれど、一緒に考えてくれる仲間がたくさんいたからこそ、お引き受けすることができたと思います。

熊崎 一緒に考えみんなで作ったビジョンを、みんなで実現していくのですね。

新井 ビジョンを実現するのに大きな後押しになったのがSDGsでした。2016年、ICA^{※3}でSDGsについて聞いたとき、「日本の生協がやっていることとSDGsはまったく同じだ。生協の事業や活動をこれまで通りがんばって継続していくことがSDGsの実現につながるのだ」と気づき、私は大きな勇気を得た気持ちになりました。私たちのビジョンは世界の平和や地球の環境保全に貢献している、私たちは一人ひとりがSDGsの担い手なのだとして理解し、この事実が組合員や職員の自信や誇りにつながっていくと確信が持てたことは、私にとって非常に大きな転機でした。

田井 例えば4つのプロジェクト^{※4}も、最初は小さな規模だったのに、大きな社会的評価を得る取り組みにまで発展しています。地味でも一步一步着実に積み上げていく継続性は、コープみらいのすばらしい力だと思いますね。

新井 現在ではたくさんのNPO団体や、全国各地の生協とつながり、新しい取り組みに対するヒントをいただいています。コープみらい財団による奨学金給付事業もそのひとつ。また、コロナ禍では、「社会への貢献」として看護協会や医療生協に寄付をしました。今年度(2022年度)は1年間、200トンのお米を各地域のフードバンクや社会福祉協議会などに寄贈する新しい取り組みも始めました。

熊崎 最後に、コープみらいの未来に向けての期待を一言お願いします。

田井 一人ひとりの組合員の声を聴いて活かしてほしいということです。一言で言えば、コミュニケーションのとりやすい生協であって欲しいということ。3年間(2009年～2012年)、組合員と徹底して議論を積み



上げてコープみらいを創ることができました。こうしたコミュニケーションは単なる手段ではなく、まさにコープみらいのあり方そのものなのです。これからも組合員の期待を知ることを大切にしてほしいと思います。

新井 理念にある「ともに はぐくむ」は、「組合員のために」はもとより、事業と活動の連携のためには「職員自身のために」も大切だと思っています。それが誇りや自信につながります。「くらしと未来」という点では、まさに今、平和が問われています。平和というのは、世界平和や戦争がない社会などたくさんの意味がありますが、「日常の暮らしを守る」ということが私たちの使命でもあると思うのです。こうしたことを常に問いかけながら、10年先、20年先のコープみらいを創ってほしいと思っています。

熊崎 組合員さんから託された「ありがたい姿」、そしてそれをつないだビジョン2025に向かって着実に歩んできた10年でした。組合員の期待をこれからも大切にしながら、そんなコミュニケーションをとりながら、仲間たちと歩んでいきたいと思っています。今日はありがとうございました。



※3 ICA：国際協同組合同盟。世界107か国以上からあらゆる分野の314協同組合が加盟する国際組織(2022年11月現在)

※4 4つのプロジェクト：商品の利用を通じて持続可能な社会の実現をめざす活動。「お米育ち豚プロジェクト」「佐渡トキ応援お米プロジェクト」「美ら島応援もずくプロジェクト」「ハッピーミルクプロジェクト」の4つ

前史 1992-2013

事業連帯の新たな挑戦～「コープみらい」誕生へ



コープネット事業連合の設立祝賀会



三者共同中期計画作成委員会臨時全体会

co-op
ともにはぐくむくらしと未来

私たちは、一人ひとりが手を取りあって、一つひとつのくらしの願いを實現します。

私たちは、ものとの心がさがが調和し、安心してくらしをまわすことに貢献します。

私たちは、人と自然が共生する社会と平和な未来を追求します。

コープネットグループ共通の理念



統一のシンボルマーク（愛称：グリーンパルーン）

事業連帯の新たな挑戦

1992年に設立されたコープネット事業連合は、商品、宅配、店舗事業の部分共同化から事業連帯を進めていた。1999年、コープとうきょうがコープネット事業連合に加入する際、さいたまコープとコープとうきょうおよびコープネット事業連合のトップは、「合併するつもり」の協議を重ね、コープとうきょうの加入を機にコープネット事業連合は統一運営組織の体制に入っていく。

2004年、コープネット事業連合への機能統合を可能な限り進め、合併に近い事業連帯という新たな協同のレベルを目指す三者共同中期計画が策定された。これによりコープネットグループ全体の連帯への機運が高まり、2005年9月、グループ共通の理念・ビジョンの検討に着手し、2006年6月、全国の生協では初めてとなる事業連合と会員生協共通のコープネットグループ理念・ビジョンが策定された。

2007年、コープネットグループ8者による2015年ビジョン第1期中期計画が始動する。目標として、①共同購入の成長性アップと店舗事業黒字化による経営構造改革、②コープネットグループブランドの確立、③新たな価値創造と事業革新へのチャレンジ、④7生協の業務統合と共通システムの確立、⑤日本生協連との機能統合と事業連合間連帯の推進が掲げられた。

統一のシンボルマーク（愛称：グリーンパルーン）を制定し、共同購入事業ブランドの構築も推進した。これによって、「おいしく食べる幸せ届きます」をコンセプトとした事業ブランド「コープデリ」およびブランドキャラクターの「ほぺたん」が誕生した。

組織合同検討委員会・組織合同協議会発足

コープみらい誕生に至る過程では、組合員との丁寧な話し合いを重ねられ、組織的に必要な手続きを取って進められた。

2009年6月、ちばコープ・さいたまコープ・コープとうきょうの組合員理事による第1回組合員理事懇談会を開催し、組織合同（合併）に関する協議を開始した。同年11月、地区別総代会で「組織合同も選択肢の一つ」との提案および確認が行われた。

2010年1月、ちばコープ・さいたまコープ・コープとうきょう・コープネット事業連合の理事長、専務理事、組合員理事、有識者理事で構成する組織合同検討委員会が発足する。同検討委員会では、今後の組織のあり方として「現状の事業連帯を進めていく方向性」と「組織合同の中で事業連帯を進める方向性」の二つを想定し、「現状の課題」を解決する方向として、首都圏3生協が組織合同を目指すことを仮定して検討した。

同年6月の各生協の通常総代会において、組織合同も選択肢の一つとし

て検討を継続する旨を確認し、同年11月の地区別の総代会議では、組織合同は組織の枠組みの議論ではあるが、組織づくりのための議論ではなく、「組合員にとって、将来にわたって役に立つ生協像」の目標をもって議論を進めることを報告した。

2011年1月、広報誌特別号「将来の生協のありたい姿について話し合いがスタートしました」を発行し、全組合員に組織合同に関する検討状況をお知らせした。

2011年6月、各生協の通常総代会では、将来の生協のありたい姿を決める重要なテーマとして、組織合同の検討を継続し論議を尽くすことを報告した。また、検討にあたっては、ちばコープ・さいたまコープ・コープとうきょう・コープネット事業連合の理事長、専務理事で構成する組織合同協議会の設置が確認された。

同年11月、地区別総代会議で寄せられた総代の意見・要望や職員の声を受けて、各生協の組合員、職員、執行役員、専務理事で構成する「新しい生協のありたい姿」検討小委員会を設置する。

2012年1月に発行した広報誌特別号「みんなの夢をよせあつて」に添付した「夢アンケート」は、実に80万枚が回収され高まる期待の大きさが感じられた。

組織合同準備会の設置と臨時総代会の開催

2012年6月、各生協の通常総代会において、組織合同の方向性を確認し、同年11月16日に組織合同に向けた臨時総代会を開催することが承認決議された。これを受けて、ちばコープ・さいたまコープ・コープとうきょう・コープネット事業連合の理事長および専務理事で構成する組織合同準備会を設置し、新しい生協づくりの準備を進めることとなる。

議決後、6月～7月に新しい生協の名称を募集するとともに、7月～8月には全組合員に向けて組織合同（合併）を目指す旨をお知らせし、新しい生協に対する「期待アンケート」を実施した。回答者の95%が「大いに期待する」または「期待する」との期待を寄せ、コープみらい誕生への大きな後押しとなった。同年8月、2,766通の応募から選ばれた新しい生協の名称「生活協同組合コープみらい」を発表した。

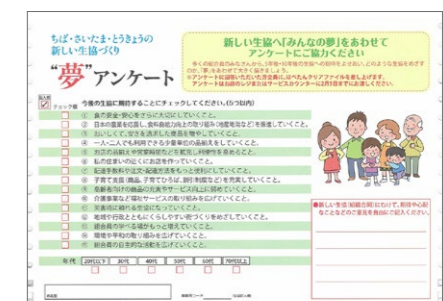
同年11月の各生協の臨時総代会において、多くの組合員から寄せられた声を形にした「新しい生協のありたい姿」を今後の事業・参加とネットワークの指針として、組合員のくらしに貢献することを謳った「趣意書」を掲げ、合併契約書を承認可決した。同年12月、行政に合併認可申請を提出すると、2013年1月には認可され、同年3月21日、組合員の声から創り上げられた組織である「コープみらい」が誕生した。



宅配事業ブランド「コープデリ」とブランドキャラクター「ほぺたん」



3生協で開催した臨時総代会（さいたまコープ）



「夢アンケート」



「コープみらい」誕生記者会見

10年史

第1章 事業と活動の土台を築く



コープみらい誕生



新しい生協の「ありたい姿」イラスト図



料理キット「そろってGood!」



コープデリミールキットが2021年度グッドデザイン賞受賞

コープみらい誕生

組合員数295万人、事業高3,600億円の日本最大の生協として誕生したコープみらいは、「ひとつになって、みらいへ。」を宣言し、組合員の夢と期待を羅針盤に未来に向かって一步を踏み出した。

組織合同（合併）論議の過程で実施した「夢アンケート」に寄せられた組合員の意見をもとに「コープみらいのありたい姿」を次のようにまとめ、その後事業計画に具体化していく。

- ①安全・安心を第一に、「日本を、食卓から元気にしたい。」を社会に発信し、日本の食を応援します。
- ②誰もが楽しんで利用しやすい生協であり続けます。
- ③子育て・高齢者支援など、地域とつながり誰もがくらしやすい社会づくりを進めます。
- ④くらしの様々な場面や災害時にも、誰もが頼れる生協であり続けます。
- ⑤一人ひとりの組合員の声（意見・要望）を聴き、活かす生協であり続けます。
- ⑥全国の生協と連携を強め、社会に向けて発信力を高めていきます。

組織合同（合併）の話し合いの中では、「生協が大きくなり過ぎて、私たちの声が届かなくなるのではないか」という不安の声が多く寄せられた。全役職員が最初に取り組むべき仕事は、一人ひとりの組合員の声に真剣に向き合い、コミュニケーションを築くことであると思いつめた。

コープならではの商品開発

コープみらいは、組合員の声をもとに開発したコープ商品や産直ブランドなど、コープでしか買えない、コープだからこそその素材や品質、おいしさへのこだわりが詰まった商品づくりを進めた。

コープ「ならではの」を象徴する商品の一つが、2013年に宅配事業で取り扱いを開始した料理キット「そろってGood!」（現在は「コープデリミールキット」）である。調理時間や買い物時間を短縮したい、毎日の献立を考えるのが大変という組合員の声を形にした商品は、カット済の野菜、肉、調味タレなどがセットされており、加熱するだけで簡単に調理ができてメインのおかずができる。なお、従来、冷凍した調理材料をセットにした商品はあったが、冷蔵商品の料理キットの取り扱いが初めてであった。

「コープデリミールキット」は現在、世界の名物料理を家庭で味わえる「WorldDish（ワールドディッシュ）」シリーズや、利用者の声に応じてお届けの翌々日までの消費期限を実現した「+1day」シリーズ、保存性の高い冷凍ミールキット「BistroDeli（ビストロデリ）」なども加わり、多彩な商品

を展開している。常に新商品を発売し、人気商品も改善を続け、2021年には累計供給点数が1億食を突破。グッドデザイン賞も受賞した。

2016年に日本生協連とともに開発を始めた「きらきらステップ」シリーズは、子育て中の組合員のグループインタビューを重ね、お子さんにも一緒に試食してもらい、一人ひとりの声を取り入れて商品化された。そのようにして組合員の想いが込められた商品は、手作り離乳食の助けになるような素材型の冷凍食品が中心となった。「国産原材料」「とことん原材料をシンプル」にこだわり、乳幼児向け食品に求められる安全性や品質に関する開発要件を新たに設け、2017年春、シリーズとして誕生した。「きらきらステップ」シリーズは、2017年に第11回キッズデザイン賞と第9回マザーズセレクション大賞を受賞した。

2019年秋、3歳～6歳頃の幼児に向けた「きらきらキッズ」シリーズがデビューする。食への興味や知識を深め、健全な食習慣を身につけていく子どもの成長に寄り添った商品づくりに取り組んだ。「きらきらキッズ」シリーズも2021年に第15回キッズデザイン賞を受賞した。

かねてよりコープみらいは、生産者と組合員の顔が見える関係をつくり、安全性が確保され、おいしさと環境配慮を兼ね備えた、生い立ちがはっきりわかる産直に取り組んできた。産直を通して持続可能な農畜水産物の生産を応援することを目指してきた。2016年、産直をコープならではの価値として伝える「産直コープの里」を立ち上げた。新たな産直商品の開発とともに、日本の農業の維持・発展に向けた取り組みを進めた。2017年、産直の範囲を水産、鶏卵、米、牛乳まで広げ、産直加工用原料を使用した商品の基準も定めた。

店舗事業黒字化に向けて

コープみらいは、店舗事業の存続・発展を目指し、さまざまな取り組みを行った。事業目標として定めた「おいしさと安心を、うれしい価格で。」の情報発信を強化し、おいしさやこだわりなどのコープ「ならではの」の商品を開発した。既存店舗では店舗モデルを常に進化させ、積極的な改装を実施する。ミニコープでは、店内生産の揚げ物（ホットデリカ）中心の部分改装を続け、簡便・即食商品の導入を進めた。SM店は「ワクワク・ドキドキ！ 買い物を楽しめるお店」をキーワードとして、総菜と水産部門の一部では、インスタ（店内加工室）と売り場の壁を取り払ったオープンキッチンタイプに作り変えるなど競争力のある店舗づくりを進めた。あわせて重点エリアを決めて新規出店のための物件探査、開発・確保を強化した。さらに、個店ごとに必要な判断を行い、損益の厳しい店舗は特別対策店に指定し、黒字の見通しが立たない場合は、組合員・地域への丁寧な対



乳幼児向け「きらきらステップ」シリーズ



「産直コープの里」策定



産直素材を使った加工品の開発



コープ高倉店（東京都八王子市）を出店



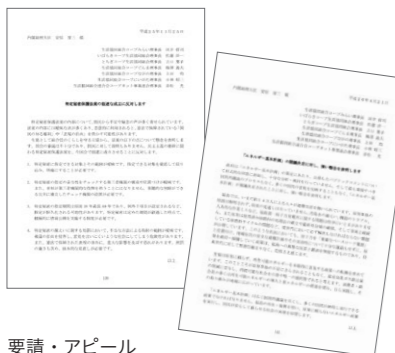
オープンキッチンで美味しさをアピール



コープ会から「みらいひろば」へ



「コープみらいカレッジ」スタート



要請・アピール

応を行いながら営業を終了することもあった。

2016年、コープみらい初の新店として、コープ高倉店（東京都八王子市）を移転拡張して出店した。2022年までに11店舗を新規に出店し、延べ150店舗以上を改装した。閉鎖店舗は24店舗（移転拡張による閉店を含む）となっており、計画的な改装、出店を継続して実施している。

新たなネットワークづくりとコミュニケーション 地域に開かれた居場所づくり

組合員による地域での自主的な活動も大きく変わった。2015年4月、コープみらいは、地域の組合員の集まりである「コープ会」のあり方を見直し、誰でも参加できる新しい集いの場「みらいひろば」をスタートさせた。新しい場をつくるにあたって名称を募集し、「みらいひろば」に決まった。「将来（みらい）にわたって笑顔があふれ、多くの方が集えるコープ“みらい”の“開かれた場”（ひろば）をつくりたい」という思いが込められている。家でも職場でもない第三の居場所として、コープの組合員施設や公共施設など街の身近な場所で開催し、組合員でなくても地域の方が誰でも参加できる。初年度は会場数が月平均で280会場に広がった。

2014年9月には、50歳以上の組合員を対象に、地域社会への参加や学びの場として「コープみらいカレッジ」を開校した。「心にときめき」「人生にかがやき」をキャッチフレーズに生徒を募集した。初年度は3エリア4キャンパスで計74名が2月に卒業した。企業・団体、NPO法人などから講師を招いて講義を行うほか、実習も行って受講生自身が体験を通して学べるプログラムを用意し、毎年開催している。卒業生はカレッジでの出会いや学んだ知識を活かし、地域の中で活躍している。

社会への発信

コープみらいは、「新しい生協のありたい姿」に定めた「社会に向けた発信力」を具体化し、2013年にはコープネットグループ会員生協理事長の連名で、「TPP（環太平洋パートナーシップ）協定交渉参加に関する要請」や「福島第一原子力発電所における汚染水問題に関する要請」を政府に提出するとともに、特定機密保護法案の拙速な成立に反対する声明も公表した。

以来、組合員の食と暮らしに直結する食の安全、エネルギー、平和問題など、社会的テーマ・政策に関する社会への発信や政府への提言を継続して行っている。2018年には「原子力発電に頼らない、再生可能エネルギーを広げる政策を求めます」、2022年には「ロシア軍によるウクライナ侵攻に強く抗議します」などを発信した。

ビジョン2025策定

コープデリグループは、「ビジョン2015」に続く次の10年を見据えて事業を展開していくために、2014年6月に「ビジョン2025」を策定した。当時、政府は段階的な消費税増税に向けて準備を始めていた。消費税増税は組合員の暮らしへの影響が懸念され、ひいては生協の事業経営が厳しくなることが予想されたため、当初計画を1年早めて次期ビジョンの検討が進められた。

ビジョン策定にあたっては、組合員や職員が主体的に参画してディスカッションやアンケートを重ね、2025年の“ありたい姿”を描いていった。「食卓を笑顔に、地域を豊かに、誰からも頼られる生協へ。」のビジョンフレーズを掲げ、事業革新と豊かな地域社会づくりに向けて決意を新たにす。

第2章 組合員の暮らしへの貢献と 地域社会に開かれた生協をつくる

「コープみらい財団」の設立

2014年、豊かな地域社会づくりの活動をしている市民団体を応援するために、従来のコープみらい社会貢献活動助成金制度を改め、「コープみらい 地域かがやき賞」の表彰制度と、市民団体の取り組みを助成する「コープみらいくらしと地域づくり助成」の制度を新設した。

社会貢献基金の趣旨を活かし、さらに豊かな地域社会づくりに貢献していくために、2015年6月には一般財団法人コープみらい社会活動財団（コープみらい財団）を設立した。財団の設立により、従来の年度ごとの断続的な取り組みから、経営に大きく左右されることのない継続的な取り組みとして基盤を強化した。

同財団は、食の安全・安心と食育活動、環境保全、高齢者福祉、児童・青少年福祉および被災地や被災者の支援に加え、これらの活動に取り組む団体への助成にも取り組むこととなった。

財団設立から2年後の2017年10月、経済的理由で高校や専門学校への就学が困難な家庭への支援を行う「ひとり親家庭の高校生（両親のいない方を含む）への返済不要の奨学金給付事業」に取り組むために、奨学金応援サポーターの募集を呼びかけた。翌年の3月までに9,000人以上の組合員から応募があり、5月に奨学生110名を決定し、返済不要の奨学金



ビジョンフレーズ



コープみらい財団設立
（地域かがやき賞合同表彰式）



コープみらい奨学金給付事業開始



コープデリ商品検査センター開設。検査風景の見学や食の安全の学習もできる



移動店舗「ふれあい便」開始



ネットスーパー「こーぷのねすば」は6店舗に



早朝配達「モーニング・デリ」(地域限定)

給付を開始した。その後も奨学金応援制度への賛同の輪は広がり、2022年度は25,000人を超えるサポーターに協力していただき、3学年合計で1,000名以上の奨学生に奨学金(毎月1万円、年額12万円)を給付している。

地域で起きているさまざまな課題を地域住民と協力し合いながら解決すること、そして、SDGsが掲げている「誰一人取り残さない持続可能で多様性と包摂性のある社会」の実現を目指して財団は活動を行っている。

食の安全と安心の発信

2018年4月、コープデリグループの商品検査施設「コープデリ商品検査センター」が始動した。1995年より稼働していた旧商品検査センターの老朽化に伴い移転・拡張したもので、実際に検査の様子が見学できる施設として生まれ変わった。フードチェーンに携わる一人ひとりが食の安全確保に取り組み、それら全てがつながる「食の安全リレー」を表す「サークル=わ(和・輪)」を施設のコンセプトとした。

商品検査センターの見学では、コープデリグループの食品安全の取り組みを伝えるとともに、食品安全に関する情報発信やコミュニケーションの場を設けている。2022年12月、リニューアル以来の見学者(オンライン含む)が2万人を突破した。

より利用しやすい事業を目指して

2013年4月より、ミニコープ蔵波店(千葉県袖ヶ浦市)を拠点に、「コープの移動店舗 ふれあい便」の巡回を始めた。買い物サポートという利便性だけでなく、地域とのコミュニケーションも重視した取り組みである。2019年には車両を更新し、より買い物がしやすくなった。

「ふれあい便」のほかにも、より利用しやすい店舗事業を目指して2010年に開始したネットスーパー「こーぷのねすば」は、2022年までに6店舗で展開している。また、2017年には、ポイントカード「ほぺたんカード」に独自の電子マネー機能を搭載するなど、「おいしさと安心を、うれしい価格で。」の店舗事業目標達成に向けて積極的な取り組みを進めている。

宅配事業では、コープデリeフレンズを改修して、より便利に使用できる総合ECサイトを2016年に開設した。また、注文からお届け日までを短縮する「ネット宅配サービス」を2014年8月から開始し、2016年7月に「指定日お届けコープ」としてリニューアルした。2017年6月には、組合員の利便性を高め、配達員の多様な働き方を実現することを目的として、早朝配達の実験を開始し、2018年9月から本格運用した。両サービスは地域

限定ではあるものの、現在も継続して実施している。宅配事業では2017年にブランドメッセージ「つかうほど、じぶんらしく。」を策定し、組合員一人ひとりの世代や嗜好、地域性などさまざまなニーズに合った商品やサービスを提供。「コープのファンづくり」に取り組んでいる。

2017年7月、組合員のくらしや持続可能な社会への貢献を目的として、電気小売事業「コープデリでんき」を開始した。再生可能エネルギーの割合の高さを重視した「FIT電気メニュー」と料金の安さを重視した「ベーシック電気メニュー」を用意した。発電方法由来による電源構成など、供給する電気に関する情報をわかりやすく伝え、利用者が主体的に電気を選べる事業を目指した。なお、「FIT電気メニュー」は、コープの物流施設などに設置した太陽光発電や、一部の店舗から排出される食品残さを利用してバイオマス発電によって生み出された電気などを利用しており、2021年度には「再生可能エネルギー100%メニュー」となった。

2019年9月には、都市ガス供給「コープデリガス」の事業も開始した。

住み慣れた場所で自分らしく暮らす

2014年7月にコープみらいは、安心して暮らせる街づくりへの貢献を目指して、24時間365日スタッフが常駐して、安否確認および生活相談を実施する、サービス付き高齢者向け住宅「コープみらいえ四街道」(千葉県四街道市)を開設した。また、訪問介護や訪問看護、デイサービスなどの介護保険サービスも利用できるよう、契約時に必要なサービスを選べる設計にしている。

2016年11月には、サービス付き高齢者向け住宅「コープみらいえ中野」(東京都中野区)を開設した。1階・2階はコープ中野中央店、4階に居宅介護支援・訪問介護センター「コープみらい中野介護センター」を設置し、医療連携先の訪問看護ステーションも併設した施設である。

2019年2月、住み慣れた地域や自宅で在宅生活を続けたい人のために、「通い」「泊まり」「訪問」が利用できる小規模多機能ホーム「コープ夢みらい北本」(埼玉県北本市)も開設した。さらに2020年3月には、看護小規模多機能ホーム「コープ夢みらい四街道」を開設している。

毎年、コープみらいは自治体との懇談の場を設定し、地域の課題を共有していた。宅配の配達等の中で生まれた地域の人との関係や見守りの機能を地域の中で活かすために自治体にも連携を提案し、2019年2月に締結した協定をもって、千葉県、埼玉県、東京都(島しょ部を除く)の全170自治体と、高齢者を中心とした地域見守り活動に関する協定等を締結した。



コープデリでんき・コープデリガス



サービス付き高齢者向け住宅「コープみらいえ四街道」



小規模多機能ホーム「コープ夢みらい北本」



全170自治体と高齢者等見守り協定等を締結



東日本大震災岩手県内の被災地支援



福島「土壌スクリーニング・プロジェクト」に参加



福島県双葉町の住民が避難する旧騎西高校「おしゃべりサロン」



熊本地震被災地での支援活動

災害復興支援活動

コープみらい誕生当時は、東日本大震災の記憶がまだ新しく、災害時でも頼れる生協であることが期待されていた。

コープデリグループとともにコープみらいは、頻発する地震や台風・豪雨災害に対し、被災地や被災産地への募金活動、人的支援（職員ボランティア）等を行ってきた。

「忘れない」「伝える」「続ける」「つなげる」を合言葉に、2011年の東日本大震災発生直後から被災地・被災された方々に寄り添いながら様々な支援を続けた。ボランティア支援は、がれきの撤去・泥出し・清掃から始まり、福島第一原発事故の風評被害を受けて実施された福島の農地の「土壌スクリーニング・プロジェクト」には、コープデリグループで延べ169人の職員が参加した。

また、「忘れない」の思いを込めた、組合員から被災されたメーカーや生産者への応援メッセージや寄せ書き、ふれあい喫茶（サロン）への組合員からのお茶菓子と応援メッセージを届ける活動に取り組んだ。さらに子どもたちが集う場・学び場の支援や首都圏で避難生活をしている方々の交流イベントにも協力した。

2011年度から2019年度まで続けた「東日本大震災復興支援募金」では、コープデリグループ全体で累計5億698万円が寄せられた。2020年度からは、原発事故の影響が残る福島の復興を継続的に支援する「ふくしま復興応援募金」に取り組んでいる。同募金は、福島県が行う子どものための事業や震災遺児・孤児への支援「東日本大震災ふくしまこども寄附金」のほか、一般財団法人ふくしま百年基金の「市民がつくるふくしま復興・SDGs推進基金」に寄付した。

東日本大震災以降も各地で自然災害が頻発し、支援活動に取り組んできた。2016年の熊本地震発生時には、大雨被害や地震災害が起こった地域への募金協力を呼びかけると同時に、コープみらい社会活動財団より義援金を拠出している。職員のボランティア派遣も行った。募金で集まった2億990万円は、熊本県・大分県へ義援金等として贈呈した。

翌2017年7月の九州北部豪雨発生時には、緊急支援募金3,008万円を自治体等を通じて被災者のもとへ届けた。

2019年に発生した令和元年房総半島台風（台風15号）、令和元年東日本台風（台風19号）の被害も甚大であった。コープみらい・コープデリグループは、生活再建、産地支援を目的に「台風15号被害緊急支援募金」「台風19号被害緊急支援募金」を速やかに呼びかけた。台風15号に関しては1億2,005万円、台風19号に関しては1億3,793万円、グループ全体で約4億円の義援金が集まり、自治体への贈呈や産直産地への寄付を行っ

た。また、台風15号では千葉県を中心として産地に大きな被害があり、延べ733人の職員のボランティアが被災産地で支援活動を行った。

コロナ禍の事業と活動

新型コロナウイルス感染症の拡大は、事業や活動に大きな影響を及ぼした。

2020年3月以降、緊急事態宣言や外出自粛要請を受け「巣ごもり」需要が急増し、想定を大幅に上回る事態が発生した。宅配事業では、一時注文が殺到して集品センターで対応できる限界を超えてしまい、商品の大量欠品が相次いだ。安定的な供給を確保するため、集品センターの対応力強化に最大限努めた。また、商品カタログのページの削減、商品カタログの一時発行中止、新たな組合員加入受付の一時中止など、生協の事業としては異例の対応をした。

一方、店舗でも営業時間の短縮、混雑を緩和するためにセールチラシの一時中止、特定曜日に実施していたポイントサービスを休止した。

組合員と職員の安全と感染症拡大防止を最優先に、さまざまな活動を休止または延期せざるを得ない状況となっていた。コープみらいが誕生した2013年から千葉、埼玉、東京の各エリアで開催してきた「コープみらいフェスタ」は感染防止対策の実行が困難であることから、3エリア全ての開催を中止せざるを得なかった。

「新しい生活様式」に対応していくためにはどうすれば良いか、双方向のコミュニケーションを大切にしたい組合員活動や助け合い活動のあり方をどのように進めていくのかが大きな課題となった。その中で、「みらいひろば」などはオンラインでの開催に切り替え、徐々に活動を再開した。集うことができなくなってしまったコロナ禍では、あらためて地域のつながりの大切さを実感した。そして、ブロック委員会を中心につくり上げたオンラインイベント「コープみらいWEB交流フェスタ」を2021年2月に初めて開催した。

また、コロナ禍で影響を受けている組織・団体などへの支援・協力活動を行った。2020年6月～7月にかけて「新型コロナウイルス感染症に負けない！緊急応援募金」に取り組み、3都県のコロナ対策寄付金・募金、共同募金会、日本ユニセフ協会へ5,219万円を送金した。地域医療を支え続けていた医療機関および医療従事者への支援を目的として、各地の看護協会や地域の医療生協（合計19団体）に1億4,730万円を寄付した。

コープみらい社会活動財団では、感染拡大で困窮した人々を支援する団体の事業・活動に対して、「コロナに負けるな助成」として2回にわたり延べ176団体へ1,465万円の助成も進めた。



台風被害緊急支援募金贈呈（埼玉県）



台風被害復興支援職員ボランティア



外出自粛要請で品切れが相次ぐ



書面議決中心で開催した通常総代会（2020年）



オンラインでつながる「コープみらいWEB交流フェスタ」



店舗などにフードドライブ食品回収ボックス設置



「コープみらい活動サポーター」による出前授業



「子ども・子育て支援基金」設立

コープデリグループでは、職員の健康・安全確保に取り組むとともに、組合員が安心してコープを利用できるよう、各事業と組合員活動での感染症予防および拡大防止を徹底した。「新型コロナウイルス感染症対策の基本方針」は、感染拡大状況の変化に応じて、適宜、改定している。

コープデリ宅配物流システム障害

2021年5月、新しい宅配物流システムに移行する予定であったが、障害を引き起こしたことで、1週間にわたって商品のお届けができなくなってしまった。商品を安定的にお届けするというコープの役割を果たすことができず、特にコロナ禍においては命にかかわる重大な問題であった。「障害を起こした問題点・課題」「再発防止策」「今後の物流システム・リプレイス（宅配物流システム再構築）の方向性」をまとめ、組合員広報誌に、物流システム障害のおわびと原因・再発防止策を掲載した。

また、システム障害発生によって配達できなかった商品については、賞味期限がお届け基準以内の商品は、次週以降の企画やインターネット注文「eフレンズ」での数量限定企画で活用したほか、店舗で販売するなど、可能な限り食品ロスにならないよう努めた。また各地域のフードバンクなど32団体に寄贈した。

未来へつなぐ取り組み

コープみらいは、「みらいにつなぐもったいない」を合言葉に、フードチェーン全体で様々な食品ロス削減の活動を進めている。従来、仕入れた食品を組合員に供給するまでの流通段階での取り組みとして、破袋したお米や物流施設に予備として入荷した野菜などをフードバンク等に寄贈していた。2016年からは、主催するイベントでフードドライブを開始した。以降、地域で活動するフードバンク等と連携して、店舗や組合員施設に専用の食品回収ボックスを設置している。

学校や生涯学習の場で「食」や「環境」「SDGs」に興味を持つきっかけづくりとして楽しく学べる体験プログラム「コープみらい活動サポーター」を開始した。各地の保育園や小学校、地域包括支援センター、学童保育、公民館などで、食育をテーマとした出前授業を行っている。

2020年、こうした食育教室・出前授業による子どもたちへの食の安全と学びの取り組みや、商品検査センターを拠点にした科学的側面からの食育プログラムの実践が評価され、コープデリグループは、第14回キッズデザイン賞「消費者担当大臣賞」を受賞した。

2021年11月、新たな社会貢献として「子ども・子育て支援基金」を設立した。国内外で飢餓、貧困、格差などに苦しむ子どもたちのサポートに取り組んでいる団体への資金面の支援を目的としている。「はがき・切手回収キャンペーン」として組合員から寄せられた書き損じ・未使用のはがきや切手などを回収して換金し、得られた資金を各団体を通じて国内外の子どもや家族に送っている。2022年度には、同基金は「社会福祉法人中央共同募金会」をはじめとする3団体に総額2,400万円を寄付している。

2022年3月、コロナ禍で困難を強いられている生活困窮者の支援と厳しい状況におかれている国内のお米生産者の応援を目的として、地域のフードバンクや社会福祉協議会をはじめとする、生活困窮者に食料支援等を行っている団体にお米の寄贈を行った。寄贈するお米の量は1年間で約200トンとなった。

コープデリグループは、2022年2月、SDGs重点課題推進スローガン「未来へつなごう」を策定した。同スローガンのもと、組合員・消費者、生産者・取引先、行政・他団体、役職員の連携を深め、SDGsの取り組みに関する様々な事業・活動を展開している。

2022年度は、食料自給力向上、生産者応援の観点から、「食べて未来へつなごう 日本のお米づくり」応援キャンペーン、「飲んで未来へつなごう 日本のお米づくり」応援キャンペーン、さらに野菜や果物の生産者を応援するキャンペーンも展開している。「お米育ち豚プロジェクト」「佐渡トキ応援お米プロジェクト」「美ら島応援もずくプロジェクト」など、従来の取り組みも「未来へつなごう」のスローガンのもと継続して推進している。

2022年6月、新しいビジョン「ビジョン2035」の策定に向け、コープデリグループ6生協とコープデリ連合会・子会社の職員で構成する「ビジョン2035検討ワーキングチーム」がキックオフした。役職員、子会社社員、組合員理事の協議を経て、今後、地区別の総代会議で報告・協議を重ね、2024年6月の各生協の通常総代会での承認を目指している。

コープみらいは、組合員の願いである「コープみらいのありたい姿」を実現するために、「事業」と「活動」の両輪で進んできた。次の10年もコープみらいならではのコミュニケーションを大切にしながら、持続可能な世界の地平を拓くために、コープみらいと社会の未来を描いていく。



生活困窮者へお米200トンを寄贈



SDGs重点課題推進スローガン「未来へつなごう」策定



「食べて未来へつなごう」「飲んで未来へつなごう」



ワーキングチームによる「ビジョン2035」検討開始



左から古賀摩希子、上野八重、深堀和香子、岡田雅子、栢森俊吉(敬称略)

「コープみらい」の未来を語る ～ビジョン2035に向けて～

ちばコープ・さいたまコープ・コープとうきょうの3生協が組織合同(合併)して「コープみらい」となり、2023年3月で10周年を迎えました。記念すべき節目に田井修司前理事長、新井ちとせ理事長、熊崎伸専務理事による鼎談の場が設けられたことを受けて、組合員理事と職員が「コープみらい」の未来について語る座談会が開催されました。

参加者

上野 八重：組合員理事

深堀和香子：組合員理事

岡田 雅子：職員 人材開発部
(ビジョン2035検討ワーキングチームメンバー)

栢森 俊吉：職員 ビジョン2035検討ワーキングチームサブリーダー

ファシリテーター

古賀摩希子：組合員理事

「コープみらい」誕生までの経過や 携わった方々の思いをどう受け止めた？

古賀 本日はコープみらいのこれまでの10年、そして未来に向けての想いを語り合いたいと思います。まずはコープみらいの誕生を振り返ってそれぞれが感じたこと、印象に残ったことをお話いただければと思います。

栢森 組織合同にあたって、そのときかかわってきた

方々の思い、組合員がどう感じていたのか、そこにまで目を向けることはすごく大切だなと思いました。生協が組合員の組織であることを改めて感じましたし、その中で「生協の職員の役割は？」と考えました。組合員に代わり専門的なところを担っていく役割ですが、一般的な会社とは違って、組合員の願いや期待を実現していく組織であることをいつも忘れずに仕事していくことが大切だと再確認しました。

上野 私は自分が一組合員、一利用者として「こうなったらいいな」と答えた夢アンケートが、どんなふうを集計されてまとめられていくのかを、その年にブロック委員になったので、目の当たりにすることができました。あのとき、「こういう生協にしたい」と誰かが決めるのではなく、みんなの声を集めて進んだ先が、今のコープみらいにつながっているんだと今回改めて思いました。

古賀 ボトムアップ型で組合員の声からありたい姿をつくってきたというのは、大事なところですよ。

深堀 2012年、合併の議論が白熱している頃、「大きくなると声が届かなくなるんじゃない?」「地域のことなんて忘れちゃうんじゃない?」と、総代さんが机をバンバンたたきながら、涙ながらに言っていたけれど、最終的には反対されていた総代さんも「そうよね、合併するといいいこともあるのよね」と言って納得していく姿がとても印象的でした。「ありたい姿」を見ることで皆さん実感されて、みんなの声からコープみらいができていったのを思い出しました。そのとき、300万人の組合員にそれぞれの暮らしとそれぞれの考えがあって、それがひとつになって成り立っていることを忘れてはいけないと思ったんです。

岡田 ただ単に80万人の声を集めたのではなく、一人ひとりの声をしっかり大切にしながら、作り上げた生協なんだなというのを改めて感じました。最終的にはボトムアップでひとつの「ありたい姿」に向かってスタートを切ることができた。一人ひとりの思いをきちんと汲み取ってくれる場があったのだなと実感できました。

古賀 私たちが思っている以上に、ずっと前から合併に向けてはいろいろな準備がされてきていて、要所要所で「大切にしたいことは同じだ」という確認ができたから、コープみらいはここまで来られたんですね。

「コープみらい」が取り組んできた事業や活動をどのように受け止めた？

古賀 次に、実際に皆さんがコープみらいにこの10年かかわってきたなかで、この取り組みはすごいな、自分たちの生協を誇りに思うな、と思うことはありましたか？

深堀 ブロック委員になったことで、商品の購入先でしかなかった生協が本当にいろんな取り組みをしていることがよくわかりました。災害が起きたり困っている人がいたりすると、あっという間に支援金を集めて現地に届けるし、生産者の想いを学べる場もあるから、商品の魅力もより深く知ることができる。地域の「みらいひろば」では、自分が気に入った商品について誰かと話すこともできます。奨学金や子ども・子育て支援基金など、本当に多岐にわたって広がっているのが、すごくうれしく感じますし誇りに思っているところです。





栢森 「誰かの役に立ちたい」という思いはみんな持っているけど、その思いをつないで形にしてくれるのが生協なんだと思います。災害時の募金に関しても奨学金に関しても、みんなの「助けたい」という思いを形にする生協という組織があることで、具体的な支援に参加できているんですね。

岡田 私は、店舗を利用させていただいている組合員に「レジで募金できるっていいわよね。買い物ができるから」と言われたことがあります。宅配でも、OCR注文書やeフレンズなどで、募金に協力できます。しかも、生協は集まった募金をどう使ったかを必ず報告しているから、自分の募金がどこにつながっているのかがよく分かって、それも信頼につながっているんだと思います。また、私自身も奨学金応援サポーターとして誰かの助けになっているんだということ、『フリージア』（交流誌）などのお便りで感じています。

古賀 2019年の大雨災害のときは、募金や物資だけの支援だけではなく、職員の現地での作業、ボランティア活動が産地との心をつないだ大きな機会になったと思います。

岡田 甚大な被害を被った生産者の方がどうにも立ち上がれなかったところ、生協の職員が一緒になって倒壊したビニールハウスの解体や周囲の片付けなど復旧作業をしたことで「ひとりじゃないんだ。折れた心も勇気づけられた」という話を聞いたときには、生

協が助け合いの組織であることを改めて誇りに思えました。

古賀 災害などの支援以外の取り組みについてはいかがですか？

上野 “居場所づくり”に取り組んでいることも生協ならではのです。私は組合員になった当初、実家が遠く、出産と同時に退職もしていたので、なかなか気軽に話せる友人を見つけられずにいました。そんなとき、宅配のチラシで見かけたコープ会に参加して、後にブロック委員としてかかわらせていただくまでになったのですが、当時の私に居場所を提供してくれたことはとてもありがたかったです。しかも、コープみらいになって、コープ会から“みらいひろば”という組合員以外の地域の方々も集まれる、よりオープンな場所になったことはすばらしいことだと思います。

深堀 地域で寂しい思いをしている子育て中のお母さんだったり、独居の方から「ここに来るとあなたがいるから参加するのよ」と言われたとき、本当に活動っていいなと思います。「誰かの笑顔につながる」ということが充実感だったり、やりがいだなというのは実感しています。

岡田 取り組みではないですが、コープの商品が地域や家庭に浸透していることを実感できたときは生協で働いていて良かったという誇りにつながっていま



す。たとえば、私の子どもが通っていた保育園でコープ牛乳が提供されていましたが、そのことを知ったママ友が、「コープなら安心だよ」と言っていたり、学童保育でもコープの商品があって、お迎えに行くと子どもたちが、「これうちにもある」とか言いながら、コープ商品のおやつを笑顔で食べているのを見て、消費者の安全・安心につながっていることを実感できました。それから、新規採用の際には、食品ロス対策や環境保全に対する関心の高まりから生協を志望する学生が増えていて、私たちのSDGsにつながる取り組みを知り、共感する人が増えてきています。

栢森 一方で、生協のさまざまな社会貢献の取り組みに関しては、まだまだ十分には発信しきれていないと思う気持ちもあります。もっと内側にも外側にも積極的に発信していくことで、社会からの期待や職員の自信と誇りを醸成することにつながると思います。

上野 そういう意味では、コロナ禍はひとつの大きなきっかけになりました。組合員とこれまでと同じようにコミュニケーションがとれなくなったことで、新しい発信方法を考えた結果、オンライン交流フェスタを開催することにもなりましたし、写真や動画を活用した発信方法に関しては、年々精度が上がっています。

深堀 動画の編集なんて素人だし、最初のうちは大変なこともあったけれど、3年間続けたことは大きな自信にもつながりました。オンラインで発信してもそんなにたくさんの人に観てもらえないのでは？という不安もあったけれど、オンラインやスマートフォンが苦手な地域の方や年配の方が、「教えてくれたら見られるから教えてくれない？」とか、「地域で集まってみんなで一緒に見ようよ」という、今までとは違う新しい活動の仕方に広がったのがすごいことだと思っています。

古賀 内外への発信力が弱いというのは、みんなが感じていたことだったんですね。千葉、埼玉、東京の3エリアで、これまでは別々に実開催のフェスタをやっていましたが、みらいがひとつになってオンラインでフェスタをやれるということも大きいことだったと思います。今年はコープデリグループの会員生協からの友情出演もあったりして、少しずつその輪が広がってきています。



次の10年に向けて 大切にしたいことは？

古賀 最後に、次の10年に向けてお話しいただきたいと思います。これまでの10年間大事にしてきたことで、これからも変わらずに守っていききたいことがある一方、社会や時代の変化に合わせて変えていかなければならないことやビジョン2035検討ワーキングチームで話し合っていることなども含めて自由に語り合っていたらと思います。

上野 ロシアのウクライナ侵攻があり、平和について考える大切な時期にきていると感じています。私たちが日々安心して暮らすためには平和であることが大前提ですが、日本は幸いにも戦争が終結して長いということもあり、平和について考えることが少なくなってきました。ですが、今回のウクライナでの戦争は私たちの生活に大きな影響を与えています。コープみらいとして、世界情勢にも目を向けながら平和を引き続き守っていく、それがみんなの暮らしを守るということにつながっていけばいいと思います。

深堀 ウクライナへの緊急支援募金もあったという間に集まったことからわかるように、自分たちや世界の平和を守りたいという気持ちは誰もが一緒。生協としても、そのために何ができるのかを常に考えていく必要がありますよね。

上野 コロナ禍では組合員や地域の方から直接声を聞く機会は限られるけど、それでもあれだけの募金が集まったということは、取り組みを支持してくれている組合員がたくさんいたということです。組合員の想いが行動に出たのです。組合員の行動を分析して、声を反映させながら事業や活動を考えることは大切だと思います。

栢森 次の10年を考えるビジョン2035検討ワーキングチームの議論の中では、もう少し先回りして組合員の思いを形にしていく、先進性や革新性、地域でのリーダーシップをより発揮した方がいいのではないかという意見や、多様性、一人ひとり、誰もが、自分らしさ、というところがキーワードとして出てきます。それから、職員が「私たちは」というときの主語には、組合員も含まれているという感覚を忘れずに今よりもさらに、事業と活動、職員と組合員が連携していけたらと考えています。また、働く人がいきいき活躍できる、誇りが持てる、生協で働きたいと思ってもらえる、そんな組織になっていきたいです。

深堀 今までは「参加」というと実際に来てくれたり、会えたり、声を聞く人を参加ととらえていたのが、商品を買うだけでも参加につながるということを最近実感しています。購入するだけの組合員への発信力を強めて、スマートフォンを見ただけでも参加につながっていくかなと考えています。363万人の組合員一人ひとりに私たちの想いや取り組みが伝わるような工夫をしていくと、もっと広がりができると思っています。組合員が声をあげていくことで、小さなところからでも社会を変えていけるような力があると本当に思っています。最終的には「コープみらいっていいね」とか「私たち生協に入っていて良かったね」って組合員自身も誇りに思えるような組織になればいいと思います。

上野 コープみらいの良さは、選べる楽しさということがあります。選べるのは商品だけではなく、社会貢献だったり、活動だったり、参加の場所だったり、そういった選択肢も並んでいて、そこから選べるというところをまだ組合員ではない地域の皆さんにも知っていただけたらいいですね。

岡田 私たちの地域には組合員と「未来」の組合員しかいないので、2035年を迎えるにあたって、本当に生協が身近にあって、生協に加入するだけで社会貢献や地域活動につながるという仕組みづくりや発信力

を高めたいということをビジョン2035検討ワーキングチームでも話しています。

その第一歩として、今、目の前にいる大切な組合員にとって身近な存在になることを目指したいです。たとえば、食に関してでも福祉に関してでも、お困りごとがあるときに気軽に相談してもらえる体制づくりや人材育成を進めていきたいです。

古賀 他団体とのつながりも強化していきたいですね。お米の寄贈をスタートしたことも大きなきっかけになりましたね。

上野 各地域で活動している支援団体とつながることによって、直接の支援は難しい方にも間接的に思いが届くようになり、活動の幅が広がりました。そのことによって、組合員のみなさんにも社会貢献について考えてもらえる機会が増えたと思っています。なかには、「私は何も社会貢献活動していない」と思っている方もいらっしゃるかもしれないけれど、生協の組合員であることが既に社会貢献なのだと思ってもらえるようになればいいと思います。

栢森 社会貢献活動に取り組み続けるためにはしっかり剰余（利益）も出していないといけないので、職員としてはその責任を念頭に置いて今まで以上に邁進したいです。生協は、事業を通じて組合員に最大の奉仕をして、地域に貢献していくわけですから、社会を豊かにするためにも、職員に課せられた役割は大きいと感じています。

古賀 これからも、組合員と職員が一丸となって、よりよい未来を目指していけたらと思います。

上野 コープみらいが未来をつくるという思いでいきたいなと思います。その未来は社会全体の未来ですね。

深堀 今の社会情勢の落ち込み具合というか不安感がある中で、その希望になるような、「コープみらいがあるから大丈夫」って思えるような組織に、次の10年で絶対になれる気が私はしています。

岡田 超高齢社会や人口減少、環境問題が本当に劣悪になってくる中で、コープみらいだけで考えてきたことが、やはり行政との連携や全国の生協で連帯が取れるようになってきています。これからの10年間も前向きに組合員や地域のために生協をより良くした



い、社会をより良くしたいという、大きい視野で見ることができ、私もわくわく感があります。

栢森 今、皆さんがおっしゃったように、社会のためにすることが、さっき平和の話もありましたけど、結果的に組合員にとっても職員にとっても、豊かなくらしや笑顔につながるのだと思います。私たちの事業や活動、地域でのつながり、これまで大切にしてきたことは、この先の未来をきりひらく力があると信じて、組合員と一緒により良い社会を目指していきたいです。

古賀 皆さんが、わくわくしながら次の10年を迎えようとしている気持ちが本当に伝わってきました。そして、私たち組合員理事やブロック委員も「組合員」、職員も「組合員」、地域でお買い物をしてくださる方も「組合員」。組合員みんなでこれまでの10年をつくってきたということも皆さんのお話から改めて実感しました。この先も田井さんから引き継いだ「コープみらいは社会の未来をつくる」という言葉を胸に、組合員のくらしと社会の未来に目を向け、事業と活動がつながって地域を豊かにする取り組みを進めていきたいですね。

本日はありがとうございました。



組合員からのメッセージ

どれだけAIやロボットなどで便利な世の中になっても、人と人の温もり・心と心のつながりを何よりも大切に、地域の人のよりどころでありますように！

未来は便利な生活へ変化していくと思いますが、人が、分かち合う存在を必要とするのは普遍だと思います。生まれてから死ぬまで寄り添い、生きることに「安心」を届けられるのは、コープみらいだからできることだと思います。組合員の声大切に、それを形にしてくれるからこそ、信頼できるのだと思います。いつまでも、そのまま、そばにあって欲しいです。

誰もが将来の夢を持てる、そんな社会づくりの一端を担う存在であってほしい。今後の社会貢献活動に期待します！

コープみらいは、人と人のつながりを大切にするあたたかい場所だと思います。10年、20年後もそのあたたかさの輪が広がり、心配ごとがあれば相談できる、良いことがあれば話したくなる、やりたいことがあれば応援してくれる、「それならコープへ行ってみよう！」が合言葉になるような、もっと身近な存在になることを期待しています。

これからもずっと、日本の食とくらしの素晴らしさを一生懸命伝えていくコープみらいであってほしい。どんなに簡単に食べ物が手に入る世の中になっても、食を支える生産者の想いや苦勞を未来の子どもたちへ届け、安全と安心を守り続けてくれると信じています。

コンビニエンスストアのように、街のあちこちでコープみらいのお店を見かけるようになっていいな。夢のような想い、叶いますように！

デジタル化が進み、便利なツールが増えていっても、効率の良さを求めるのではなく、ひと手間かけるべきところ、互いの想いを伝え合う場を大切にしてほしいです。組合員であることを誇りに思える、そんなコープみらいであり続けてください。

何年後も「CO・OP ともに はぐくむ くらしと未来」の理念のもとに、組合員第一の組織であって欲しいと願っています！

これからもますます、唯一無二の、コープみらいらしい存在でいてください。コープみらいだったら受け入れてくれる、応えてくれる、みんなの心よりどころとなる、あたたかい存在であることを、過大に期待しています。

SDGsが叫ばれたとき、コープではすでにやっているよ！ということも多かったですよ。この先も、世の中の数歩先を行くコープであってほしいです♪

Our Message

組合員に聞く！「コープみらいに期待すること」は？

コープみらいのブロック委員（組合員）に、「これからのコープみらいに期待すること」を聞きました。組合員が思い描く、コープみらいの未来って？

※ ブロック委員：組合員の自主的な活動をコーディネートし、サポート役を担う組合員

これからは年齢を重ねるにつれ、介護や自身の健康に不安が出ると思います。いつまでも「コープがあれば安心」と思える存在であってほしいです。

私が望むのは、生協の商品がすぐ購入できる仕組みです。例えばオンラインで、お店に行ったように商品を眺めて選び、ドローンで家に届く。子育て中の人や高齢者など、買い物に出にくい人にも優しい社会になるのではないのでしょうか。

組合員活動で、世の中には困難に直面しているさまざまなことがたくさんあるのを知りました。コープみらいを通して、困りごとが少しでも減って、どんな人でも暮らしやすい世の中に近づいていることを祈ります。その頃に自分がどんな風に関わっているかも楽しみです。

他者にやさしい世界になってほしい。そのために、生協にはやさしさの連鎖を起こすキッカケになってほしい。みんなが笑顔で暮らせる未来を希望します。

食料自給率が向上し、生産者の顔が分かる、安全・安心な商品が並ぶ食卓をいつまでも笑顔で囲めますように。平和、環境……私たちを取り巻くさまざまな課題に対して、一人ひとりが手を取り合い、解決に向けて進み、みんなの暮らしの中心にコープがいること。世界中の人々や全ての生き物が安心して暮らせる“みらい”であることを願っています。

30年後も美味しいものをお腹いっぱい食べられる食卓を。30年後もコープクオリティやコープサステナブル商品を中心に「やっぱり生協っていいね！」とコープマークだからこそ選びたい商品。30年後も組合員活動がたくさん参加で大きな輪になっていますように。

これからもずっと「たべる、たいせつ」を続けてください。大切な食に関する意識を広げるために、コープのレストランやクッキングスクールがあるといいですね。

誰一人取り残さないという広い視野で、いろいろな社会問題に取り組み、たくさんの人から「ありがとう」と思われる存在のコープさん。日本に住む、他言語を母国語とする方々もファンになること間違いなしなので、多言語の広報やカタログなどでグローバルなつながりづくりを期待します！

結婚して越してきた全く知らない土地での生活。近所のスーパーが閉店してバスで買い物に行くのは妊娠中も産後も大変。そんな時に宅配が助かった。産後、孤独な子育てから救ってくれたのは、ちばコープの子育てひろば。「よく来たねー」と迎えてくれた時、ほっとした。今、私はブロック委員としてコープみらいと地域を繋ぐ役割を担っている。宅配だけではない魅力を多くの人に発信して、暮らしが豊かになる手助けができる組織であり続けてほしい。

東日本大震災、自然災害、コロナ禍、ウクライナ情勢…。何かあるたび、今、自分にできることを考える。すると、あっという間にコープみらいが支援を開始する。私はいつもその取り組みにちょっとだけ加えていただく。一人ひとり小さなチカラでも、一緒になれば大きな活動になる。何年、何十年後の未来もそんなコープみらいであり続けてほしいと願う。

コープみらいが、食卓を飛び越えて暮らしの全てを支える、家族のような存在になっているといいな。そして、「みらいひろば」が老若男女みんなが集う笑顔あふれる地域のオアシスになりますように！

組合員からのメッセージ

「生協さん来た!」

80過ぎの両親は、自力で買い物に行くのもしんどくなってきます。持病があるので、コロナ禍ではスーパーに行くことも不安がっています。そんな中、生協で食材を選んで注文書に記入したり、配達員さんとコミュニケーションしたりするのは一つの楽しみとなっています。ピンポン!とインターホンが鳴ると「あ、生協さん来た!」と、いそいそと外に出て行く姿を見ると、生協に入ってよかったーと思います。(50代女性)

「お久しぶりです。お元気でしたか?」

その配達員の方は、腰が低く、とても丁寧なあいさつや対応をしてくださいました。玄関のインターホンを押して扉を開ける前に、中にいても聞こえるくらい「こんにちは」と明るくあいさつをしてくださいました。学校や仕事の関係で家族が家にいないことが続き、久しぶりに直接受け取れたときの出来事です。配達のお兄さんから「お久しぶりですね。お元気でしたか」と声をかけてくださいました。お兄さんが担当している方は多くいらっしゃると思うのですが、「久しぶり」ということを覚えて声をかけてくださったことがとてもうれしかったです。荷物を受け取るだけですが、重い荷物は玄関の中まで運んでくださったり、明るく丁寧な対応をしてくださるのは、とても大切なことだと実感できました。(20代女性)

「生協の日」エピソードキャンペーン

「生協のココがイイ! 感激エピソード」から

ミックスキャロットに救われました!

長男は小さい時に偏食で、食事は決まったものしか食べてくれず、特に野菜は全く食べてくれませんでした。野菜ジュースは飲んでくれるものの、決まった種類しか飲みませんでした。どうか新しいものに興味を持ってほしいと思っていた時、ミックスキャロットを発見。かわいいパッケージで、子どもが好きというコメントを見て注文しました。長男に見せると、手を伸ばして「おいしい!」と言って飲んでくれました。そこからハマってしまい、毎食飲んで、身体が黄色くなるほどでした(笑)。そこから新しいものにも興味を持ち、チャレンジしてくれて食事の幅が広がりました。ミックスキャロットに救われました。あの時にミックスキャロットを買ってよかったです!(40代女性)

7月30日の「生協の日」にちなみ、組合員から生協の宅配やお店でよかったこと、好きな生協の商品、生協の思い出をテーマに、「生協を利用してよかった」エピソードを募集しました。その中からコープみらいの組合員から寄せられたエピソードをご紹介します。

「大丈夫、私が届けますから!」

数年前、乳がんになりました。治療が始まったら髪が抜け、体調もすぐれないかも。近所や友達にも病気のことは言いにくいな。買い物行けるかな、行きたくないと不安になり、知り合いの生協の配達員さんに病気のことを伝えました。話を聞き、一緒に涙を流し「大丈夫、私が商品を届けますから。安心して治療してくださいね」と。誰かに話すことで、気持ちも落ち着き、不安を安心に変えることができました。治療で体調が悪く、人に会いたくないときも毎週笑顔で商品を届けてもらい、配達員さんとの会話で日常を取り戻しました。届けてもらったのは商品だけではなく、心身や生活の安定だったと思います。生協宅配を利用してよかったと心から思いました。今ならミールキットも利用して、調理もラクだったなと思います。ひとに寄り添う生協、大切な存在です。(50代女性)

家族と話す時間が増えた

仕事や子どもの学校のことで毎日忙しくなり、手作りでご飯というのなかなか難しくなってきました。スーパーの冷凍食品、麺をゆでてタレをかける、レトルト食品など、お手軽な食品がテーブルを占めるようになり、私は駄目だ思うようになりました。コープさんの宅配を利用するようになったのもこの頃で、どこかで罪悪感を持っていました。ある日の仕事帰り、近所の方がコープの配達員の方と話しているのを耳にして、私は罪悪感が消えるきっかけをもらいました。「コープさんの商品でラクしちゃって、自分がダメになるみたいで」「そんなことないです。その分、家族と話せる時間ができるじゃないですか」。そういえば、と私は思ったのです。子どもと話す時間が増えたなあ。忙しい中でも家族を思える余裕ができていて、コープさんの一言で気づけました。これからも利用して家族との時間を大切にしたいです。(40代女性)

地域の生活を丸抱えしてくれるお店

近隣に大きなショッピングモールやスーパーが増える中、ずっとコープの利用を続けているのは、やはり品物に対する安心があるからでしょうか。ここ何年か感じているのは、いい意味でレジの店員さんとお客さんとの距離が近いことです。やさしく声をかけてくれて、軽く世間話をしたり、買い物かごをサッカー台まで運んでくれたりと、それがとても自然なんです。近隣のスーパーではあまり見かけません。まさに地域の生活を丸抱えしてくださっているお店ですね。安心してお買い物ができます。(60代女性)

頼んでもいないのに商品が

東京都の島しょ部に在住です。天候が不安定だったりするとどうしても生鮮品が手に入りづらくなります。そんなとき、生協の冷凍品がとても助かるのでずっと利用しています。船で港まで来るシステムなので、コープの配達の方に会ったりしたことはありません。数年前に、大きな災害を経験しました。幸い家族が被害を受けることはなかったのですが、水道や電気が止まりました。友人知人が被害にあいました。島全体の雰囲気も沈み、みんなが落ち込みました。生協を頼む気力もわきませんでした。そんなときです。生協から荷物が届きました。頼んでもいないので、びっくりして開封すると、ペットボトルの水、インスタント食品。お見舞いのお手紙。心に温かな力が宿りました。私もいつか誰かにこの恩返しのリレーをしたいと思っています。(50代女性)

骨取り魚は介護食にも

義母が脳梗塞で倒れ、右半身に麻痺が残ってしまい、通常の食事がしづらくなってしまった時、生協さんの骨取り魚シリーズにはとてもお世話になりました。老人や子どもにも食べやすい商品でしたが、病気などで麻痺がある人でも食べやすく、味もおいしくてとても使い勝手がよかったです。きれいに食べることができるとは達成感につながり、精神的にもとてもうれしかったようです。生協さんのおいしい食事と心配りは、介護をする身としてもとても助かりました。(40代女性)

ミニコープがあって「ホッ」

私が育った街にはミニコープがあります。私が生まれた時期にお店ができたようで、その頃から母は利用しています。お店の2階にはコープ会のような集いで使う部屋もあり、私も幼い頃に連れられた記憶があります。今は実家を出て生活していますが、帰省するたびにお店があることに安心し、買い物を楽しんでいます。母が顔見知りの店員さんが何人もいたり、お店で知り合いに会うと長話が始まるようすを眺めるのも何だかホッとします。私にとってコープはずっとあり続けてほしい存在です。(30代女性)

※ 東京都の一部島しょ部にも商品を届けています

■年表

2013年

- 3月 生活協同組合コープみらい創立
料理キット「そろってGood!」（コープデリミルクキット）みらい全エリアで販売（同年1月に一部エリアで先行販売）
- 4月 移動店舗「ふれあい便」千葉県袖ヶ浦市中心に開始
上尾デイサービスセンター（上尾市）開設
要請・アピール「TPP(環太平洋パートナーシップ)協定交渉参加に関する要請」
- 6月 **閉店** ミニコープ上広瀬店(狭山市)
- 7月 店舗全店クレジットカード対応、全店レジ袋有料化
- 9月 滝野川介護センター（東京都北区）開設、**閉店** コープ蓮田店(蓮田市)
「コープみらいカルチャー」全エリアでスタート
初の「コープみらいフェスタ」を秋葉原で開催
- 10月 組合員数300万人到達
- 11月 **要請・アピール**「福島第一原子力発電所における汚染水問題に関する要請」
要請・アピール「特定秘密保護法案の拙速な成立に反対します」
▶2013年度 店舗改装(SM16店舗、ミニコープ22店舗)

2014年

- 2月 **閉店** ミニコープ喜沢店(戸田市)・朝日店(桶川市)・葛梅店(久喜市)・早稲田店(新宿区)・町田木曽店(町田市)・南台店(中野区)・金杉店(船橋市)
関東甲信大雪被害の産直産地へ支援募金・職員ボランティア実施
- 3月 **閉店** コープ吹上店(鴻巣市)
西荻介護センター（杉並区）開設
- 4月 **要請・アピール**『「エネルギー基本計画」の閣議決定に対し、強い懸念を表明します』
要請・アピール「憲法解釈の変更による、集団的自衛権の行使容認に反対する意見書」
- 6月 店舗ポイントカード全店共通利用開始
「ビジョン2025」策定
- 7月 **閉店** ミニコープ上の原店(東久留米市)
サービス付き高齢者向け住宅「コープみらいえ四街道」（四街道市）開設
要請・アピール「集団的自衛権の行使容認の閣議決定に強く抗議し、撤回を求めます」
- 8月 宅配「指定日お届けコープ」都内一部地域で実験開始
宅配コミュニティサイト「コープ・デリシェ」開始
「広島県土砂災害緊急募金」実施
- 9月 越谷介護センター（越谷市）開設
「コープみらいカレッジ」3エリアで開校
宅配「子育て割引」小学校入学まで全額無料化(2018年に見直し)
- 10月 コープサービスECサイト「ライフなびネットショッピング」開設
- 11月 「コープ田端店」（東京都北区）都心型200坪モデルとして改装
宅配OCR注文書カラーバリエーション化(個人対応化)
「第4回カーボン・オフセット大賞」優秀賞受賞
- 12月 宅配個人別クーポン配布実験
コープデリ習志センター（船橋市）災害時の自家給油施設設置
▶2014年度 店舗改装(SM7店舗、ミニコープ25店舗)

2015年

- 3月 宅配「原市団地ステーション」（上尾市）で「くらしのプラットフォーム」事業
第1回「コープみらいかがやき賞」「コープみらい地域かがやき賞」で助成
- 4月 地域に開かれた笑顔あふれる居場所「みらいひろば」スタート
要請・アピール「平和な未来を 一戦後70年を迎えて」
NPT(核不拡散条約)再検討会議に代表団派遣
- 6月 「一般財団法人コープみらい社会活動財団」設立
宅配「まべたんポータルアプリ」新設
大宮介護センター（さいたま市）開設
女子栄養大学と協定締結、店舗「からだ健やかシリーズ」弁当発売
CO・OP商品ブランド刷新「想いをかたちに SMILING CO・OP」
- 7月 **閉店** ミニコープ南池袋店(豊島区)
- 9月 「関東・東北豪雨」緊急支援募金実施
要請・アピール「安全保障関連法案の採決に対し、強く抗議します」
- 10月 店舗レシート「お楽しみクーポン」全店開始
- 11月 コープデリ三郷センター（三郷市）開設
▶2015年度 店舗改装(SM11店舗、ミニコープ7店舗)

2016年

- 1月 コープみらいの食育「たべる、たいせつ」シンポジウム開催
- 2月 コープデリ川越南センター（川越市）開設
- 3月 **新店** 初の新店「コープ高倉店」（八王子市）移転拡張オープン
- 4月 産直ブランド再構築「産直コープの里」開始
「熊本地震緊急募金」実施・職員ボランティア派遣
コープデリ立石センター（葛飾区）開設
「コープみらい八街の森」10周年イベント開催
- 5月 コープデリ青梅センター（青梅市）開設
要請・アピール「私たちは『核兵器のない世界』の実現に向けた取り組みを続けていきます」
- 6月 第3回通常総代会で新井ちとせ理事長就任
宅配総合ECサイトリリース、宅配「フレフレ子育てCLUB」立ち上げ
- 7月 **新店** コープ調布染地店(調布市)、**閉店** ミニコープ千駄ヶ谷店(渋谷区)
- 8月 **新店** コープ府中寿町店(府中市)
- 9月 「北海道・岩手大雨緊急支援募金」実施
富士見介護センター（富士見市）開設
- 10月 **新店** コープ指扇店(さいたま市)建て替えオープン、宅配「産地・工場直送便」開始
- 11月 「コープみらい秩父の森」10周年イベント開催
新店 コープ中野中央店(中野区)
サービス付き高齢者向け住宅「コープみらいえ中野」（中野区）開設
ユネスコ「無形文化遺産」に「協同組合」が登録
フードバンクへの紙おむつ提供を開始(埼玉エリア)
要請・アピール「原子力発電の廃炉費用および賠償費用に関する意見」
要請・アピール『「核兵器禁止条約」の制定に向け、日本はリーダーシップの発揮を』
要請・アピール「TPP協定の承認案等について、今国会で成立させないことを強く求めます」
▶2016年度 店舗改装(SM6店舗)

2017年

- 3月 コープデリ東所沢センター（所沢市）開設
コープデリ秋津センター（東村山市）開設
店舗ポイントカード「ほべたんカード」にプリペイド式電子マネー機能
店舗惣菜専用「大宮デリカセンター」（さいたま市）開設
商品政策「産直の考え方」改定、産直商品の範囲拡大、水産産直・持続可能な調達方針
- 4月 乳幼児食「きらきらステップ」シリーズ発売
「お米育ち豚」飼料用米配合率15%に
店舗にフードドライブ専用食品回収ボックス設置開始(千葉エリア2店舗)
- 5月 宅配で一般医薬品斡旋事業「スクロールドラッグ」開始
消費者庁主催「ベスト消費者サポーター章」受章
要請・アピール「私たちは『核兵器のない世界』の実現に向けて、平和の願いを広げていきます」
- 6月 コープデリ市川センター（市川市）とコープデリ目黒南センター（目黒区）で早朝配達実験開始(2018年に「モーニング・デリ」として目黒南センターで本格稼働)
宅配カタログ「Vie Nature(ヴィナチュール)」発刊
店舗「お支払いセルフレジ」実験導入
コープネット事業連合がコープデリ連合会に名称変更
コープデリ連合会野田船形物流センター（野田市）開設
閉店 ミニコープ野方店(中野区)
- 7月 宅配事業ブランドメッセージ「つかうほど、じぶんらしく。」策定
「九州北部豪雨災害緊急支援募金」実施、電気小売事業「コープデリでんき」開始
新店 コープ中野鷲宮店(中野区)オープン
- 8月 フードバンクへの紙おむつ提供を開始(千葉エリア)
- 9月 宅配「お届け確認メール通知サービス」開始
浦和東介護センター（さいたま市）開設
- 10月 コープみらい財団「奨学金応援サポーター」募集開始
宅配カタログ「ハピ・デリ!」「ハピ・デリ!きらきら」2媒体化(2019年6月終了)
宅配OCR注文書長尺化
福島県富岡町「夜の森荘」を「コープみらい八街の森」に植樹
- 11月 **新店** コープ東村山秋津町店(東村山市)オープン
コープデリ印西センター（印西市）開設
「第6回健康寿命をのばそう!アワード」優良賞受賞
- 12月 宅配ポイント交換チラシ「ポイントモール」発行
▶2017年度 店舗改装(SM7店舗、ミニコープ1店舗)

2018年

- 3月 西荻介護センター事業廃止(中野介護センターへ統合)
店舗アプリ「お店ナビコープデリ」開設
- 4月 福祉事業「生協10の基本ケア」実践、LINE@コープデリ公式サイト開設
コープデリ商品検査センター（さいたま市）移転・拡張し開設
- 5月 コープみらい財団奨学生110名を決定、初めて奨学金給付を開始
「お米育ち豚プロジェクト」10周年
- 6月 **要請・アピール**『「第5次エネルギー基本計画(案)」に対する意見』「私たちは、原子力発電に頼らない、再生可能エネルギーを広げる政策を求めます」
- 7月 「西日本大雨災害緊急支援募金」実施
- 8月 コープデリグループの子育て支援活動が「第12回キッズデザイン賞」消費者担当大臣賞受賞
- 9月 田端介護センター（東京都北区）を滝野川介護センター（同）に統合
「ハッピーミルクプロジェクト」10周年
コープデリ岩槻センター（さいたま市）開設
「北海道胆振東部地震支援募金」実施
- 12月 高島平団地(板橋区)で「デガ配達」開始
▶2018年度 店舗改装(SM8店舗、ミニコープ1店舗)

2019年

- 1月 店舗「大粒はたとつつぶ貝の北海道づくし重」が「お弁当・お惣菜大賞2019」最優秀賞受賞
- 2月 「高齢者等見守り協定」事業エリア内全170自治体と締結
小規模多機能ホーム「コープ夢みらい北本」（北本市）開設
- 4月 「コープみらい活動サポーター制度」が3エリアで整備
閉店 ミニコープ車返店(府中市) **新店** コープ府中車返店(府中市)
- 5月 **閉店** ミニコープたまらん坂店(国立市)
- 6月 **新店** コープ国分寺内藤店(国分寺市)、コープ葛飾白鳥店(葛飾区)
- 7月 **閉店** ミニコープ氷川台駅前店(練馬区)
宅配eフレンズ音声注文開始、コープデリグループ組合員500万人到達
- 9月 都市ガス供給事業「コープデリガス」開始
「台風15号(令和元年房総台風)被害緊急支援募金」実施
- 10月 「台風19号(令和元年東日本台風)被害緊急支援募金」実施
台風15号被災産地に職員ボランティア派遣
ネットスーパー「コープのねすば」コープひばりが丘店(西東京市)開始
- 11月 宅配「自動音声電話注文」「かんたん1分注文」サービス開始
コープデリの環境の取り組みが「エコマークアワード2019」優秀賞受賞
宅配サービス「コープデリ」が「第11回マザーズセレクション大賞」受賞
- 12月 食品ロス削減の取り組みが「第7回食品産業もったいない大賞」受賞
▶2019年度 店舗改装(SM4店舗)

2020年

- 1月 CO・OP商品誕生60周年
- 2月 **新型コロナ**「コープみらいフェスタきやっせ物産展2020」中止
- 3月 「ふくしま復興応援募金」開始
「多層階」コープデリ東靴谷センター（大田区）開設
看護小規模多機能ホーム「コープ夢みらい四街道」（四街道市）開設
- 4月 **新型コロナ** 新型コロナウイルス感染症対策の基本方針策定
新型コロナ 店舗営業時間短縮・セールチラシ一時中止
新型コロナ 宅配・店舗とも家庭内食需要の増加で欠品、品切れ相次ぐ
「佐渡トキ応援お米プロジェクト」10周年
- 5月 「多層階」コープデリ町屋センター（荒川区）開設
- 6月 **新型コロナ** 「新型コロナウイルス感染症に負けない! 緊急応援募金」実施
新型コロナ 第8回通常総代会を書面議決中心に開催
新型コロナ 学校給食用の牛乳を店舗で応援販売
- 7月 「2020年7月豪雨災害支援募金」実施
「ハッピーミルクプロジェクト」紺綬褒章受章
- 8月 「美ら島応援もずくプロジェクト」10周年
- 9月 コープデリグループ「食の安全と学び」が「第14回キッズデザイン賞」消費者担当大臣賞受賞
- 10月 **新型コロナ** 「コロナに負けるな!コープみらい・つながり助成」実施
要請・アピール「容量市場制度の見直しを求める意見」
組合員活動「みんなでおためし!海のエンジェル」が「第2回ジャパン・サステナブルシーフード・アワード」ファイナリスト選出

- 12月 バイオガス発電(ニューエナジーふじみ野)による電力調達開始
▶2020年度 店舗改装(SM15店舗、ミニコープ2店舗)

2021年

- 1月 コープデリグループの福祉政策策定
「4つのプロジェクト」が環境省主催「グッドライフアワード」受賞
- 2月 「美ら島応援もずくプロジェクト」動画が「サステナアワード伝えたい日本の“サステナブル”」レジェンド優秀賞受賞
新型コロナ コープみらいWEB交流フェスタ開催
プラスチックごみ削減の取り組みが「令和2年度彩の国さいたま環境大賞」奨励賞受賞
「コープデリミルクキット」販売食数グループ合計1億食突破
- 3月 **新型コロナ** 剰余金から看護協会・医療生協に寄付
コープデリチケットで電子チケット取り扱い開始
新型コロナ 「コロナに負けるな!コープみらい・市民活動助成」実施
- 4月 **要請・アピール**『「第6次エネルギー基本計画」策定に向けた意見』
- 5月 宅配物流システム障害発生
- 6月 ネットスーパー「コープのねすば」コープ市川店(市川市)開始
- 7月 コープデリでんき「再生可能エネルギー100%メニュー」開始
- 8月 コープデリグループSDGs重点課題策定
「2021年8月大雨災害支援募金」実施
コープの幼児食「きらきらキッズ」が「第15回キッズデザイン賞」受賞
閉店 ミニコープ祖師谷店(世田谷区)
- 10月 太陽光発電の余剰電力買取サービス開始
コープデリミルクキットが「2021年度グッドデザイン賞」受賞
- 11月 「子ども・子育て支援基金」設立
- 12月 「食べて未来へつなごう 日本の米づくり応援キャンペーン」実施
店舗バーコード決済開始、コープみらいオンライン交流フェスタ開催
▶2021年度 店舗改装(SM9店舗、ミニコープ7店舗)

2022年

- 1月 店舗惣菜専用「桶川デリカセンター」（桶川市）開設
要請・アピール「容量市場制度の再検討を求める意見」
- 2月 「飲んで 未来へつなごう 日本の酪農」応援キャンペーン実施
SDGs重点課題推進スローガン「未来へつなごう」策定
「産直の取り組み」が「令和3年度地産地消等優良活動表彰」関東農政局長賞受賞
- 3月 **要請・アピール**「ロシア軍によるウクライナ侵攻に強く抗議します」
「ウクライナ緊急支援募金」実施
閉店 ミニコープ久喜東店(久喜市) **新店** コープ久喜店(久喜市)
ペットボトルキャップを再利用した買い物カゴ導入
200トンの米をフードバンク等を通じて生活困窮者へ寄贈開始
- 4月 ネットスーパー「コープのねすば」コープ幸町店(志木市)開始
- 6月 生産者応援「ひょうろとうもろこし」店舗で販売
- 7月 コープデリ連合会創立30周年
閉店 コープ桶川店(桶川市)、ミニコープ砂町店(さいたま市)
- 9月 **閉店** ミニコープ大間店(鴻巣市)、ミニコープ松葉町店(柏市)
- 10月 「コープみらい×中央共同募金会 子ども・子育て支援助成」助成開始
「子ども・子育て支援基金」3団体へ寄付
ネットスーパー「コープのねすば」コープ葛飾白鳥店(葛飾区)開始
- 11月 「食べて 未来へつなごう 日本の野菜・くだもの」応援キャンペーン実施
店舗フルセルフレジ実験開始
▶2022年度 店舗改装(SM6店舗、ミニコープ3店舗)

2023年

- 1月 宅配・店舗「くらし応援全国キャンペーン」実施
要請・アピール「GX 実現にむけた基本方針」ならびに「今後の原子力政策の方向性と行動指針」（案）に対する意見
- 2月 「コープみらいフェスタきやっせ物産展2023」4年ぶり開催
「トルコ・シリア地震災害緊急募金」実施
- 3月 宅配「産直 はなゆき農場有機牛」取り扱い開始
閉店 コープ若葉台店(稲城市)
コープみらい創立10周年

■ 歴代役員 (2013～2022年度)

年度	理事長	副理事長	専務理事
2013	田井 修司	佐藤 利昭 上原 正博	土屋 敏夫 小方 泰
2014	田井 修司	佐藤 利昭 上原 正博	土屋 敏夫 小方 泰
2015	新井 ちとせ	小林 新治	土屋 敏夫
2016	新井 ちとせ	小林 新治	土屋 敏夫
2017	新井 ちとせ	土屋 敏夫 小林 新治	熊崎 伸
2018	新井 ちとせ	土屋 敏夫 小林 新治	熊崎 伸
2019	新井 ちとせ	土屋 敏夫 永井 伸二郎	熊崎 伸
2020	新井 ちとせ	土屋 敏夫 永井 伸二郎	熊崎 伸
2021	新井 ちとせ	永井 伸二郎	熊崎 伸
2022	新井 ちとせ	永井 伸二郎	熊崎 伸

■ 設立時役員 (2013年度)

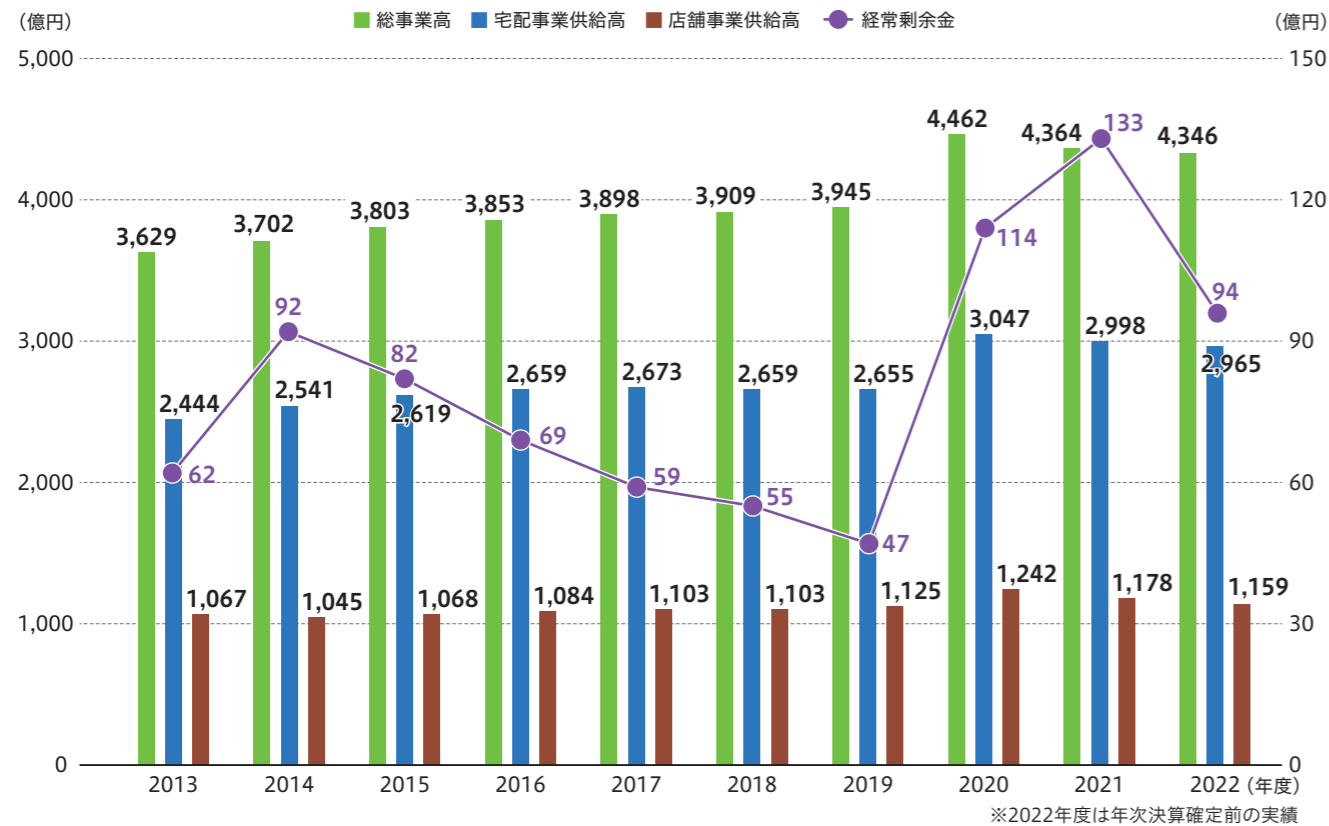
代表理事理事長	田井 修司
副理事長	佐藤 利昭、上原 正博
代表理事専務理事	土屋 敏夫、小方 泰
常務理事	熊崎 伸、中村 憲治
理事	鳥羽 治明、吉川 尚彦、塩崎 佐武郎
常勤監事	松浦 亨、岩崎 一行、青島 利昭

■ 現役員 (2022年度)

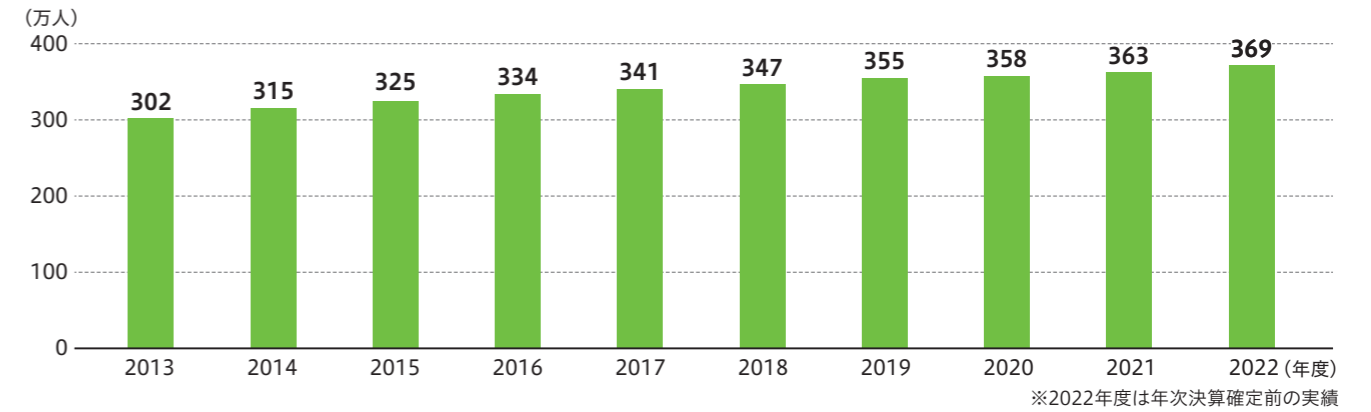
理事長	新井 ちとせ
副理事長	永井 伸二郎
代表理事専務理事	熊崎 伸
代表理事常務理事	中村 憲治
常務理事	河田 喜一、鳥羽 治明、山内 明子
常勤監事	木村 隆之

※理事長・副理事長および常勤役員を記載 (2023年3月20日現在)

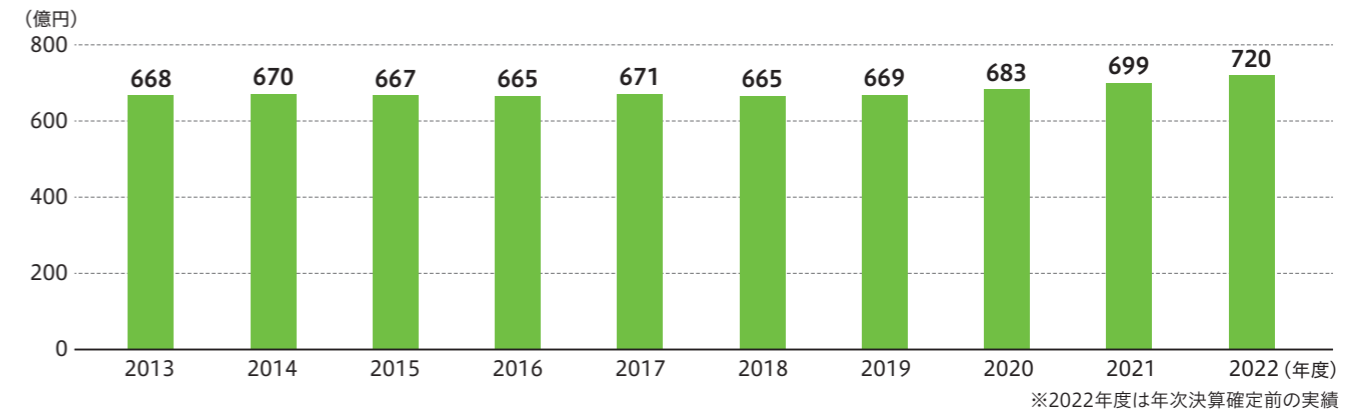
■ 事業高、供給高、経常剰余金の推移



■ 組合員数



■ 出資金



あとがき

コープみらいの創立10周年記念企画は、組合員や関係する皆さまへの「感謝」とコープみらいの軌跡を学び「継承」していくことを目的に、「未来へつなごう」をテーマに取り組むこととしました。

本誌では、記念鼎談として、田井前理事長、新井理事長、熊崎専務理事に、コープみらい誕生の経過、意義、誕生後の社会的役割の振り返り、そして未来への提言などを語っていただきました。その鼎談を受け、座談会として組合員理事と若手職員で現在検討中の「ビジョン2035」を見据えた未来のありたい姿を語っていただきました。

長引くコロナ禍、相次ぐ物価の値上げ、そして平和への危機など、時代が大きく変化している中、本誌を読んで、改めて、コープみらいが何を大切にしてきたのか、何を受け継ぎ未来へつなげていくのかを考える機会になれば幸いです。

生活協同組合コープみらい 副理事長
10周年記念企画実行委員会委員長 永井 伸二郎

生活協同組合コープみらい 10周年記念誌
2023年4月発行

発行：生活協同組合コープみらい
〒336-8523 埼玉県さいたま市南区根岸1丁目5番5号

編集・制作：株式会社出版文化社
印刷・製本：日経印刷株式会社



コープみらい

食卓を笑顔に、地域を豊かに。